

# 病院年報

---

2024年度版

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院



# 理念と基本方針



## 理念・基本方針

### 理 念

「温かい心と気配りの医療」

### 基本方針

地域医療支援病院として、地域の期待に応える

多職種によるチーム医療の充実を進める

患者のところに寄り添う安心安全の地域医療を行う

病院を支える経済的基盤を盤石なものとして、中長期的な目標の達成に努める

職員の満足度を向上させ、より働きやすい職場環境を目指す

2025年4月1日

JCHO横浜中央病院 病院長

■ 目 次 ■

理念と基本方針

独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院組織体制図

診療部門

▪ 内科（総合内科・糖尿病内科）・救急科	2
▪ 腎臓・人工透析内科	4
▪ 呼吸器内科	6
▪ 循環器内科	7
▪ 消化器・肝臓内科	11
▪ 内視鏡センター	14
▪ 外科	17
▪ 血管外科	20
▪ 整形外科	23
▪ 脳神経外科／物忘れ外来	24
▪ 泌尿器科	25
▪ 皮膚科	27
▪ 眼科	29
▪ 放射線科	31
▪ 麻酔科	32
緩和ケアチーム部	33
ペインクリニック内科	34
▪ 歯科口腔外科	35
▪ 総合診療科	37
▪ 臨床研修	40
▪ 健康管理センター	44

医療技術部門

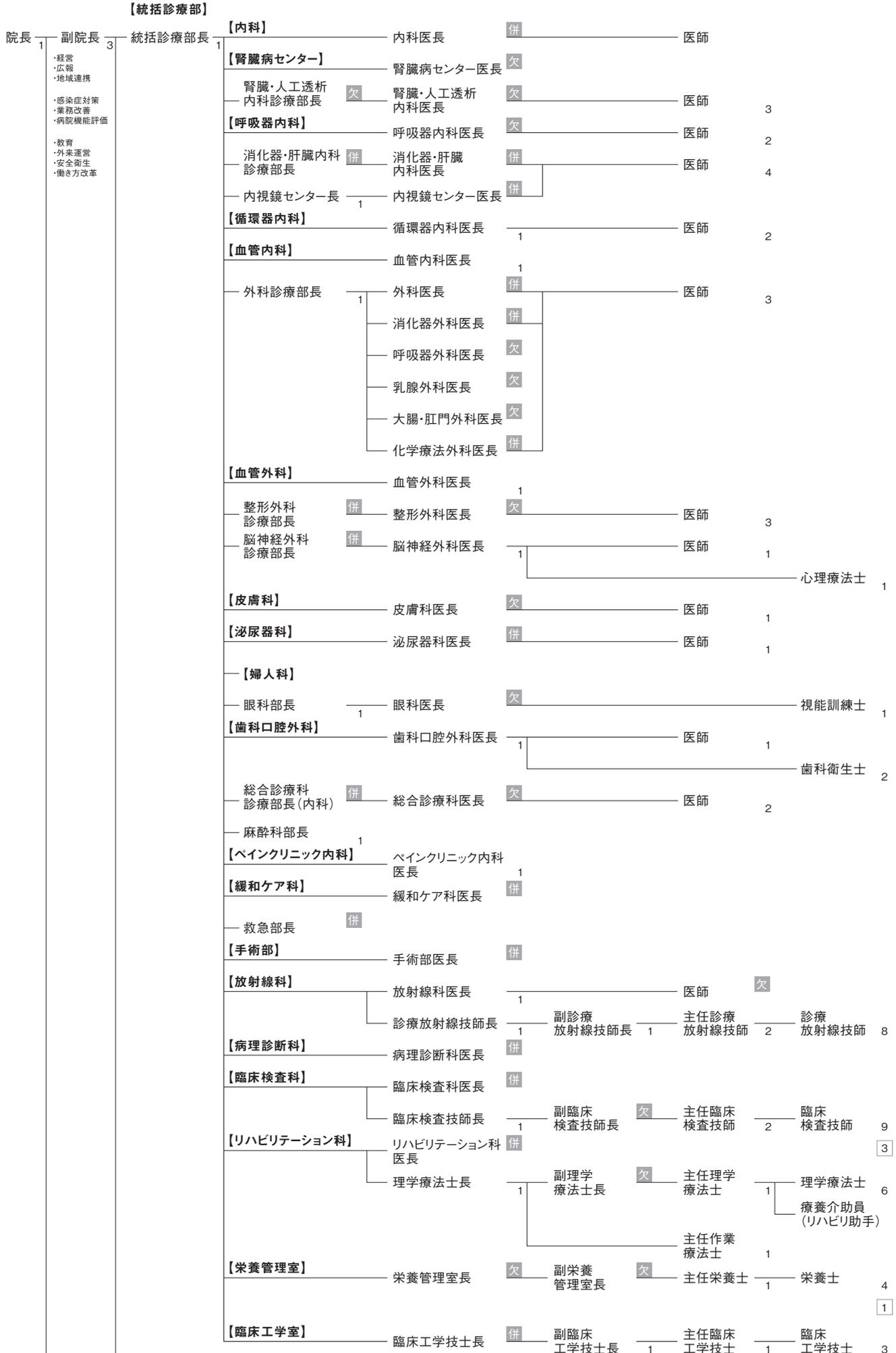
▪ 薬剤部	47
▪ 臨床検査科	49
▪ 放射線部	51
▪ 栄養管理室	53
▪ 理学診療部	55
▪ 臨床工学室	57
▪ 医療福祉相談室	58
▪ 臨床心理室	60

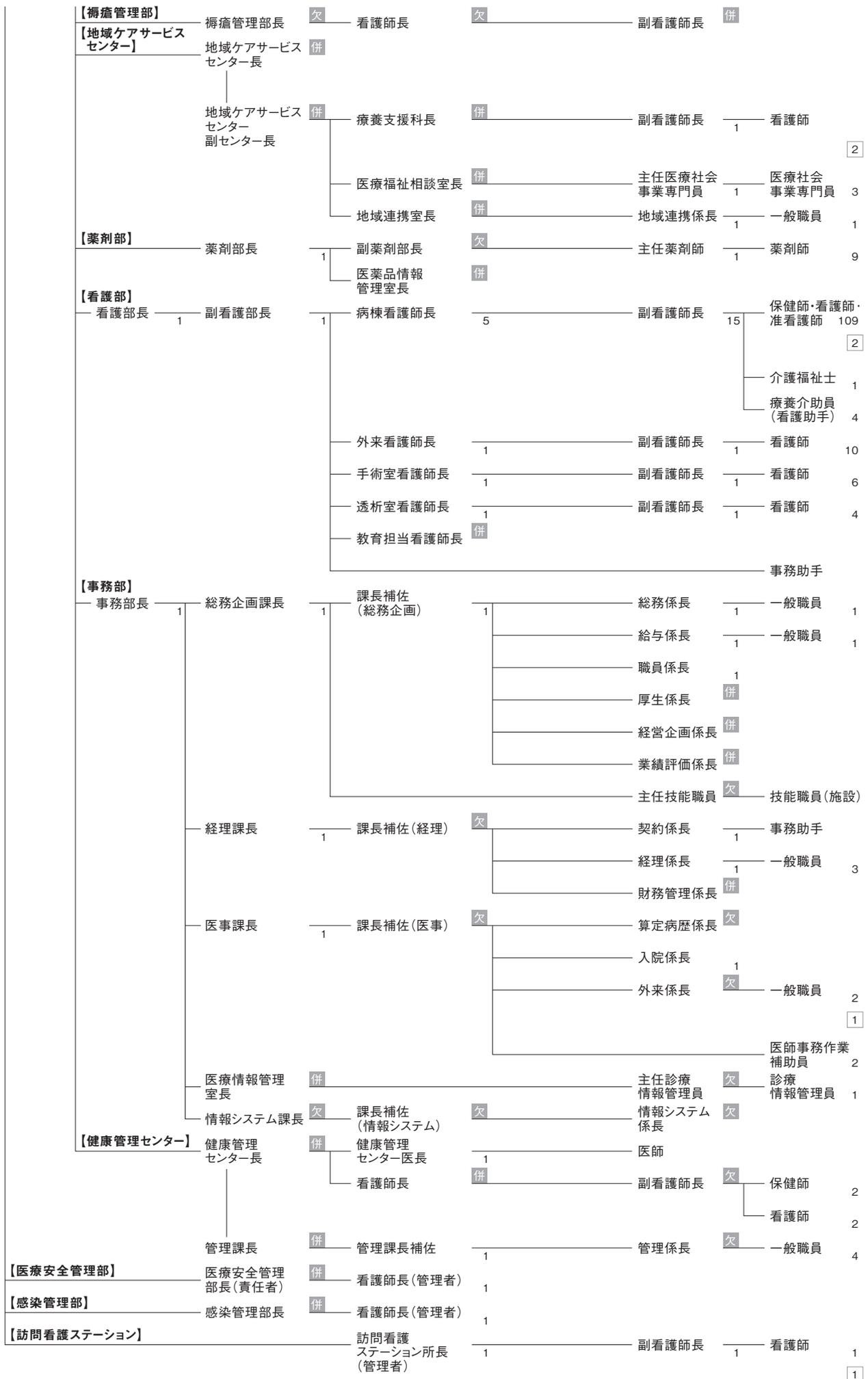
看護部

▪ 看護部	63
▪ 2B病棟	65
▪ HCU	66
▪ 3B病棟	67
▪ 3C病棟	68
▪ 地域包括ケア病棟	69
▪ 4C病棟	71
▪ 看護部外来	72
▪ 腎臓病センター	73
▪ 手術室・中央材料室	74
▪ 医療安全管理部	76
▪ 感染管理室	79
▪ JCHO 横浜中央病院附属訪問看護ステーション	81
▪ 療養支援科	83

事務部

▪ 総務企画課	85
▪ 経理課（経理・財務管理・契約）	86
▪ 医事課	87
▪ システム管理室	88
▪ 地域ケアサービスセンター 地域医療連携室	89







# 診療部門

# ■ 内科(総合内科・糖尿病内科)・救急科 ■

## ■ 人員構成 ■

診療責任者 大岩功治 (常勤 内科・救急科部長 副院長)

### 総合内科

福本由香里 (非常勤)	日本大学附属板橋病院	総合内科後期研修医)
山田 和志 (非常勤)	日本大学附属板橋病院	総合内科後期研修医)
徳永 遼 (非常勤)	日本大学附属板橋病院	総合内科後期研修医)
莫根 康平 (非常勤)	日本大学附属板橋病院	総合内科後期研修医)
林 慶将 (非常勤)	日本大学附属板橋病院	総合内科後期研修医)

### 糖尿病内科

稲村 恒明 (非常勤)	陽和クリニック院長)
京原 麻由 (非常勤)	横浜市立大学病院 糖尿病内科)
高橋 明裕 (非常勤)	横浜市立大学病院 糖尿病内科)

### 救急科

中村 圭孝 (非常勤 横浜市立みなと赤十字病院救命センター)  
(岡田医師 吉澤医師) (非常勤 横浜市立みなと赤十字病院救命センター)

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### 総合内科の特徴

おもに内科系の初診外来および救急対応を行なった。  
医師は日本大学板橋病院総合内科の専攻医が行う。

### 救急科の特徴

内科系救急搬送については、働き方改革のスタートであったが、24時間救急体制を維持、各担当医師は夜勤扱いとなり、翌日は休息日とした。外科に関しては、午後11時以降を宿直として扱うことになった。この方法にて2次救急医療は堅持することができた。

救急体制は、各曜日で担当医を決めて対応、午後の救急担当医は各診療科部長が初期応需を行い、所属医師や総合内科医師が対応。初期臨床研修医が内科救急研修中では、総合内科医師、担当医師とともに対応した。またクリニックなどの施設からの救急要請に関しては、入退院支援看護師が初期対応需を行い、その後診療科振り分けまでを行うシステムを導入した。

毎週翠水曜日は救急車対応には、みなと赤十字病院救命センター救急科の協力を得ておこなった。

### 糖尿病科の特徴

糖尿病は生活習慣と社会状況の変化に伴い急激に患者数が増えており、潜在的な患者数も含めると増加の一途である。また糖尿病は合併症問題となり、特に網膜、腎臓、神経系に異常を来し、心血管疾患を併発して致命的になることも多い。このため近年は、新薬とともに、その使用方法や実際のコントロールの基準がガイドラインとして発表されている。

当院では糖尿病患者様の外来診療を、横浜市立大学附属病院内分泌・糖尿病科の医師の協力にて、糖尿病専門治療を行なっている。

また、コントロール不良な患者や食事指導などが必要な場合は、総合診療科のサポートを得て入院教育指導も行った。

## ■ 内科外来担当表 ■

	月	火	水	木	金
総合内科	福本 由香里 (日大)	山田 和志 (日大)	徳永 遼 (日大)	莫根 康平 (日大)	林 慶将 (日大)
糖尿病内科		稲村恒明 (PM)		富樫 優 (市大・PM)	高橋 明裕 (市大)
救急科 (救急車担当)	当院常勤医師 福本 由香里	当院常勤医師 山田 和志	中村 圭孝 他 (みなと赤十字 病院) 徳永	当院常勤医師 莫根 康平	当院常勤医師 林 慶将

## ■ 統計 ■

### 救急科

1. 時間内内科系 救急車搬送数 990件 (令和6年度)
2. 時間外内科系 救急車搬送数 2240件 (令和6年度)
3. 内科外科 合計救急車搬送数 4477件 (令和6年度)
4. 直接来院急患 内科系 1236件 外科系 978件

## ■ 腎臓・人工透析内科 ■

当科の診療は大きく分けて、腎臓病診療、高血圧・糖尿病診療、血液浄化診療の3つに分けられる。腎臓病診療は合併症診療（腎機能障害に伴う溢水の診療、末期腎不全に至ったケースに対する腎代替療法診療等）が多い。生活習慣病に関しては高血糖による合併症（ケトアシドーシス、高血糖性昏睡等）が多くを占めた。他血液浄化診療については、敗血症などに対する従来から実施されていた外来維持透析診療や維持透析患者の合併訴訟診療の他、令和2年度から本格的に開始してきた急性浄化、エンドトキシン吸着療法、等の浄化療法が安定して実施可能となった点がこれまで進歩してきた点と考えられた。

### ■ 医師紹介 ■

仲野 瑞樹（医員）

高柳 陽平（医員）

細川 緑（非常勤医師（火曜日診察）・日本内科学会総合内科専門医・認定医・日本透析医学会専門医・日本腎臓学会専門医・日本リウマチ学会専門医）

塚本俊一郎（非常勤医師（火曜日診察））

### ■ 診療内容・特色 ■

外来診療においては維持透析診療が中心となりますが、入院診療においては合併症診療目的で入院された透析患者さんの維持透析診療の他、急性腎不全などに対する一時的血液透析治療、何らかの原因で全身状態が不安定な患者さんに対する持続式血液透析濾過、特殊な病態に対する血液吸着療法などを行っています。

#### 当科で実施している腎臓病に関連した診療の概要

	外来	入院
血液生化学検査（特殊検査を含む）	○	○
蓄尿検査による精査	○	○
腎臓超音波検査	○	○
腎臓CT	○	○
腎臓MRI	○	○
内シャント造設術	×	○ (1泊2日)
透析導入	×	○ (10日間程度)
内シャント修復（PTA含む）	○	○
血液透析診療	○	○ (※)
特殊浄化療法	×	○
急性浄化療法	×	○

(※)合併症入院診療中の維持透析診療を当科で承っております。当院では療養を目的とした入院は行っておりません。

■ 外来診療担当医表 ■

月	火	水	木	金
宮里 絃太	塚本 俊一郎	高柳 陽平 (午前)	宮里 絃太	仲野 瑞樹
	細川 緑	宮里 絃太 (午後・不定期)		

■ 実績 ■

項目 (症例、疾患、手術等名称)	2020	2021	2022	2023	2024
血液透析導入数	26件	22件	18件	11件	16件
外来透析のべ施行回数	9,529件	9,043件	8,138件	8,678件	8,114件
入院透析のべ施行回数	1,875件	1,387件	1,313件	1,289件	1,807件
腎生検施行数	13件	14件	7件	7件	1件

# ■ 呼吸器内科 ■

代表的な呼吸器疾患である慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息・肺癌などを中心に診断・治療を行っています。

## ■ 医師紹介 ■

森田 博之（医長 日本呼吸器学会専門医）

水野 悠（医員）

浮谷 瑛子（非常勤医師（木曜日診察））

## ■ 外来診療担当医表 ■

月	火	水	木	金
森田 博之	森田 博之	森田 博之	浮谷 瑛子	水野 悠

## ■ 主な検査・治療 ■

### ○外来で可能なもの

胸部レントゲン 胸部CT 血液ガス 呼吸機能検査 喀痰（抗酸菌、一般細菌塗抹）

胸腔穿刺 気管支鏡 睡眠時無呼吸スクリーニング検査 外来化学療法

### ○入院が必要なもの

気管支鏡（侵襲の強い場合） 睡眠時無呼吸症候群確定検査（PSG） 酸素療法導入（HOT）

化学療法導入 胸腔ドレナージ

## ■ 診療内容・特色 ■

代表的な呼吸器疾患である呼吸器感染症（肺炎、胸膜炎、肺結核、非結核性抗酸菌症）、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、気胸、間質性肺炎、肺癌、睡眠時無呼吸症候群などを中心に診断・治療を行っております。急性期から慢性期、終末期まで、患者さんの病態や社会的背景などの状況も鑑みて最適な医療を行えるよう努めております。

発熱を伴う咳嗽・痰、長引く咳嗽、労作時呼吸困難、血痰、SpO<sub>2</sub>低下等の呼吸器症状、健康診断などのレントゲン異常などがございましたら、当科受診をご検討いただければと存じます。

また、当院は呼吸器外科が不在であるため、初期肺癌などの手術が必要な症例は対応いただける病院へのご紹介をさせていただいております。

## ■ 紹介時のお願い ■

入院が必要な症例については、事前にご連絡をお願いします。

## ■ 所属学会 ■

日本内科学会

日本呼吸器学会

# ■ 循環器内科 ■

## ■ 人員構成 ■

### 常勤医師

大岩 功治

- ・ 副院長
- ・ 内科部長
- ・ 救急科部長
- ・ 地域ケアサービスセンター長 ・ 医学博士
- ・ 日本大学医学部 臨床教授
- ・ 日本内科学会認定医
- ・ 日本内科学会教育施設指導医（教育責任者）
- ・ 日本循環器学会専門医
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会専門医・認定医
- ・ 日本高血圧学会専門医・指導医
- ・ 日本急性血液浄化学会指導医
- ・ 日本心臓リハビリテーション学会指導士
- ・ 日本医師会認定産業医
- ・ 臨床研修指導医（プログラム責任者）
- ・ HEPT心不全緩和ケアトレーニングコース修了

古屋 真吾

- ・ 循環器内科部長
- ・ 内科主任部長 ・ 日本大学医学部 兼任講師
- ・ 日本内科学会認定医
- ・ 日本循環器学会専門医
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会専門医 認定医
- ・ 臨床研修指導医

八幡 貴治

- ・ 血管造影室部長 ・ 日本内科学会認定医
- ・ 日本内科学会総合内科専門医
- ・ 日本循環器学会専門医
- ・ 日本透析医学会専門医
- ・ 日本内科学会研修指導医
- ・ 難病指定医
- ・ 日本心臓リハビリテーション学会指導士
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会認定医

小山 裕

- ・循環器内科医長
- ・医学博士
- ・日本内科学会認定医
- ・日本循環器学会専門医

山田 将大

- ・医員 内科専攻医

### 他科協力医師

櫻井 由美

- ・健康管理センターセンター部長 ・医学博士
- ・日本内科学会認定医
- ・日本循環器学会専門医

神田 弘太郎

- ・総合診療科医長  
(木曜日外来担当)・日本内科学会認定医
- ・日本循環器学会専門医

谷江 智輝

- ・総合診療科 医員  
(火曜日外来担当)・日本専門医機構認定内科専門医
- ・日本人間ドック・予防医療学会 人間ドック健診情報管理指導士

### 非常勤医師

大角 彰仁

- ・医学博士
- ・日本内科学会認定医
- ・日本循環器学会専門医

## ■ 外来担当表 ■

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前～午後	古屋	古屋	八幡	神田	大岩
	小山	谷江	小山	大角	八幡
外来心臓 リハビリテーション			古屋		
午後（専門）		古屋 (ペースメーカー)	八幡 (ペースメーカー)		

## ■ 施設認定 ■

- ・日本循環器学会専門医研修施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本急性血液浄化学会認定指定施設
- ・日本心臓リハビリテーション認定施設（基準1）

・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設

## ■ 2024年度実績 ■

血管内治療インターベンション件数 (PCI/EVT)	108名
ペースメーカー植え込み術	11名
心臓リハビリテーション (延べ人数/実施単位)	1780件/3301単位
心不全入院件数	308名
心エコー検査	1306件
脈波検査	407件
ホルター心電図	144件
冠動脈CT件数	131例
心血管MRI件数	23例

## ■ 研究業績 ■

(共同研究) 左室収縮能が保たれた心房細動患者さんにおける心不全の合併率とその予後を明らかにするための多施設共同観察研究

SAKURA-AF2

(共同研究) 徐脈頻脈症候群に対するペースメーカーおよびカテーテルアブレーション治療に関する多施設前向きコホート研究

(共同研究) 経皮的冠動脈形成術 (percutaneous coronary intervention: PCI) 施行後の抗血栓薬の変革期におけるリアルワールドでの効果および安全性についての多施設共同観察研究 SAKURA PCI2 registry2

## ■ 論文 (共著) ■

Clinical Significance of Early Computed Tomography Scan on Thrombus Regression Rate in Acute Pulmonary Embolism: Insights from the SAKURA PE/DVT REGISTRY.

Migita S, Fukamachi D, Murata N, Saito Y, Toyama K, Matsumoto N, Ohkubo K, Tachibana E, Oiwa K, Haruta H, Nomoto K, Arima K, Ichikawa M, Uchiyama H, Tago K, Okada M, Nakayama T, Okumura Y.

J Atheroscler Thromb. 2025 Jun 1;32 (6) :688-702. doi: 10.5551/jat.65322. Epub 2024 Dec 4.

Prognostic stratification using the clinical frailty scale and geriatric nutritional risk index in patients after percutaneous coronary intervention: Sub-analysis of the SAKURA PCI2 antithrombotic registry.

Miyagawa M, Murata N, Arai R, Kojima K, Matsumoto M, Matsumoto N, Morikawa T, Atsumi W, Tachibana E, Haruta H, Kogo T, Ebuchi Y, Nomoto K, Arai M, Arima K, Mineki T, Koyama Y, Oiwa K, Okumura Y; SAKURA PCI2 antithrombotic Registry Investigators. J Cardiol. 2025 Jun 14;S0914-5087 (25) 00159-5. doi: 10.1016/j.jjcc.2025.06.006. Online ahead of print.

Clinical implications of the MELD-XI score in patients undergoing percutaneous coronary intervention: Insights from the SAKURA PCI2 Antithrombotic registry.

Sudo M, Arai R, Kojima K, Tachibana E, Atsumi W, Matsumoto M, Matsumoto N, Nomoto K, Kogo T, Arima K, Arai M, Koyama Y, Oiwa K, Haruta H, Okumura Y.

Int J Cardiol Heart Vasc. 2025 Mar 11;57:101645. doi: 10.1016/j.ijcha.2025.101645. eCollection 2025 Apr.

## ■ 学会発表 ■

7. 大岩功治 古屋真吾 八幡貴治 大角彰仁 小山裕 櫻井由美 高橋敦彦 松本直也 奥村恭男 Relationship between the Hisayama-machi Score Used to Predict the Prevention of Arteriosclerotic Disease and the Fatty Liver Index FLI 第88回日本循環器学会学術集会 神戸 2024.3.8
8. 峯本隆志 村田伸弘 松本真明 松本直也 渥美涉 立花栄三 春田裕典 向後隆章 新井将 有馬健 小山裕 大岩功治 奥村恭男 Sexual Difference in Prognosis at Short DAPT Era: Findings from the SAKURA PCI2 Antithrombotic Registry 第88回日本循環器学会学術集会 神戸 2024.3.8
9. 右田昌平 深町大介 松本直也 大久保公恵 立花栄三 大岩功治 春田裕典 野本和幹 有馬健 市川誠 奥村恭男 Thrombus Volume Monitoring at 2 Weeks: Identifying Candidates for Shortened Intensive DOAC Therapy in Acute Pulmonary Embolisms 第88回日本循環器学会学術集会 神戸 2024.3.9
10. 母坪友太 村田伸弘 松本直也 渥美涉 立花栄三 春田裕典 向後隆章 野本和幹 新井将 有馬健 小山裕 大岩功治 奥村恭男 The Synergistic Effect of Combined J-HBR Parameters: Findings from the SAKURA PCI2 Antithrombotic Registry 第88回日本循環器学会学術集会 神戸 2024.3.10
11. Atsuhiko Takahashi, Koji Ohiwa, Yasuyuki Suzuki, Shigemasu Tani : HIGHER FATTY LIVER INDEX VALUES AT SIMILAR BLOOD PRESSURE CLASSIFICATION INDICATE HIGH INSULIN RESISTANCE AND POTENTIAL INFLAMMATION :The 33rd European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Renal Protection (ESH 2024) , Berlin June 1, 2024.
12. 角本雅彦 柴尾広子 石橋祐太 大岩功治 古屋真吾 八幡貴治 荒井瑞歩 中峰さゆり 河野雪 加藤恵 川崎志穂 岩下菜摘子 当地区における心臓リハビリテーションによる地域連携と活動状況について (第2報) 神戸2024.7.14

# ■ 消化器・肝臓内科 ■

## ■ 人員構成 ■

常勤5人 非常勤医師5名

部長 藤川博敏

- ・ 医学博士
- ・ 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- ・ 日本消化器病学会指導医・専門医・評議員
- ・ 日本肝臓学会指導医・専門医・東部会評議員
- ・ 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
- ・ 総合診療専門研修 特任指導医
- ・ プログラム責任者講習会修了
- ・ 肝疾患コーディネーター
- ・ 緩和ケア研修会修了
- ・ 日本大学医学部 消化器肝臓内科 兼任講師
- ・ 鶴見大学歯学部 内科学 兼任講師

医長 金子桂士

- ・ 日本内科学会指導医・認定医
- ・ 日本消化器病学会専門医・関東支部評議員
- ・ 日本消化器内視鏡学会専門医・関東支部評議員
- ・ 日本肝臓学会専門医
- ・ 肝疾患コーディネーター
- ・ 日本消化管学会胃腸科指導医・認定医
- ・ 日本消化器がん検診学会認定医・関東甲信越支部代議員
- ・ 難病指定医
- ・ 緩和ケア研修会修了

医長 菊田大一郎

- ・ 日本内科学会総合内科専門医
- ・ 日本消化器病学会専門医・関東支部評議員
- ・ 日本消化器内視鏡学会指導医・専門医・関東支部評議員
- ・ 日本肝臓学会専門医
- ・ 日本超音波医学会専門医
- ・ 難病指定医

医員 芳賀大生

- ・日本内科学会 内科専門医
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本消化器内視鏡学会専門医

医員 河田洲

- ・日本内科学会 内科専門医

医員 井上隼輔

## ■ 統計 ■

外来延べ患者数： 9,777 名 （初診患者数：1,043名, 月平均87名）

入院新規患者数： 931 名 （月平均78名）

## ■ 認定施設 ■

日本消化器病学会認定施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本超音波医学会認定超音波専門医指導施設

日本肝臓学会認定施設

日本消化器がん検診学会認定指導施設

日本消化管学会胃腸科指導施設

日本胆道学会認定施設

## ■ 診療内容・概要・特徴 ■

1. 急性期から慢性期に至るまで、幅広く消化器疾患全般に対する診断・治療を行う。
2. 内視鏡センター協力のもと、内視鏡診断・治療を行う。
3. 生理検査室、放射線科協力のもと、肝臓領域を中心とした診断・治療を行う。

## ■ 横浜中央病院 消化器・肝臓内科 ■

消化器・肝臓内科は日本消化器病学会の認定施設であり、常勤5人、非常勤5人の体制で、外来、入院診察、内視鏡、エコーなどのルーチン検査、緊急処置などを業務内容としています。消化器疾患は多岐に分かれ、急性期は敏速に診断治療をする必要があり、内視鏡センターや外科との密な連携をスムーズにとれる体制をとっております。一方慢性期、終末期疾患、プライマリ・ケア、健診の異常精査などの患者様も、外来を窓口到手厚く対応しております。消化器肝臓内科の特徴は、部長の専門分野であるウイルス性肝疾患、肝硬変、肝細胞癌、自己性肝疾患（AIH, PBC）、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患（MASLD）の診断と治療に力を入れており、DAA療法の導入、無痛性RFA、TACE、肝生検（病理診断）を積極的に行っています。ファイブロスキャンという肝臓の硬さと肝脂肪の量を非侵襲的に定量化し測定できる機器を導入しており、幅広い肝疾患の評価の他に、慢性肝障害でおかかりの患者様の状態の把握、代謝機能障害関連脂肪性肝炎（MASH）や隠れている肝疾患の拾い上げに有効です。是非患者様をご紹介いただけますと幸いです。

また、内視鏡センターの協力のもと、ルーチンの上部下部内視鏡検査、消化管出血に対する緊急検査や消化管狭窄病変へのステント挿入、胆道疾患に対して、超音波内視鏡、ERCP、FNA、胆道ドレナージなどを積極的におこなっております。

## ■ 検査統計 ■

令和6年度肝疾患統計（令和6年4月～令和7年3月）

ファイブロスキャンによる肝硬度の測定	867件
造影超音波検査	101件
肝生検	7件
肝細胞癌に対するラジオ波熱灼療法	7件
腹部血管造影	総数13件
肝動脈化学塞栓術（TACE）	12件
慢性C型肝炎・肝硬変に対するDAA療法導入	11件

# ■ 内視鏡センター ■

## ■ 人員構成 ■

専属医師1名、非常勤医師4名、看護師8名（内視鏡技師I種2名）、受付事務員1名

## ■ 認定施設 ■

日本消化器病学会認定施設  
日本消化器内視鏡学会指導施設  
日本消化器がん検診学会認定指導施設  
日本消化管学会指導施設  
日本超音波医学会超音波専門医研修施設  
日本肝臓学会認定施設  
日本胆道学会指導施設

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

2012年5月、院内改装により3階にあった内視鏡室は2階に移転し、内視鏡センターとして独立した部門となった。毎週月曜日に行う内視鏡センターカンファレンスで治療方針を決定し、消化器内視鏡指導医2名と消化器内視鏡専門医2名を中心に検査、治療を行っている。また、看護師は内視鏡センター、外来部門の看護師が交代勤務で担当し、その他、看護助手、事務職員が内視鏡業務にあたっている。

上部消化管内視鏡検査は約3580件、大腸内視鏡は約720件行っている。今まで入院で行っていた内視鏡的大腸粘膜切除術は、外来でも行えるようにし、年間約350件施行することができた。また、地域連携の拡充のため、上部消化管内視鏡や大腸内視鏡を近隣の医療機関から直接予約できるシステムを構築し導入している。

2019年度から胆膵領域の診断、治療に力を入れており、2024年度は超音波内視鏡（EUS）は約500件、内視鏡的逆行性膵胆管造影関連処置が約350件を行った。また、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診、Intervensional EUSも行っている。

外科的手術に比べて侵襲の少ない上下部消化管ステント留置術、胃瘻造設術も行っている。急性期病院であるため消化管出血に対する内視鏡的止血術も積極的に行い、出血源不明の消化管出血に対してはカプセル内視鏡検査も施行している。

また、積極的に関連学会に参加し、発表や講演を行っている。さらに認定医や専門医取得のための育成、内視鏡技師の育成も重視しており、多数の学会の指導認定施設となっている。

中河原浩史

- ・ 医学博士
- ・ 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- ・ 日本消化器病学会専門医・指導医・評議員
- ・ 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・学術評議員
- ・ 日本超音波医学会専門医・指導医・代議員
- ・ 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医
- ・ 日本消化器がん検診学会総合認定医・指導医・代議員
- ・ 日本肝臓学会専門医・指導医

- ・日本胆道学会認定指導医
- ・日本がん治療認定医機構認定医

## ■ 検査統計 ■

令和6年度内視鏡検査統計（令和6年4月～令和7年3月）

上部消化管内視鏡	3581
内視鏡的食道胃粘膜下層剥離術	12
食道静脈瘤硬化療法および結紮術	29
上部消化管止血術	32
内視鏡的異物除去術	13
十二指腸ステント留置術	1
大腸内視鏡	725
大腸内視鏡的粘膜切除術	349
内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	22
大腸ステント留置術	3
内視鏡的逆行性膵胆管造影および関連処置	357
超音波内視鏡	507
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診	10
超音波内視鏡下内瘻造設術	7
経皮内視鏡的胃瘻造設術	16
小腸カプセル内視鏡	5
小腸バルーン内視鏡	2
総数	5671

## ■ 原著論文 ■

Ogawa Y, Tomeno W, Imamura Y, Baba M, Ueno T, Kobayashi T, Iwaki M, Nogami A, Kessoku T, Honda Y, Notsumata K, Fujikawa H, Kaai M, Imajo K, Kawanaka M, Hyogo H, Hisatomi M, Takeuchi M, Hakamada T, Honda T, Tatsuta M, Morishita A, Mikami S, Furuya K, Manabe N, Kamada T, Kawaguchi T, Yoneda M, Saito S, Nakajima A.

Distribution of Fibrosis-4 index and vibration-controlled transient elastography-derived liver stiffness measurement for patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease in health check-up. *Hepatol Res.* 2024 Oct 4. 39364641

## ■ 症例報告 ■

平本智子, 菊田大一郎, 河田洲, 芳賀大生, 大木庸子, 金子桂土, 中河原浩史, 藤川博敏: 膵体部癌に合併した急性閉塞性化膿性膵管炎の1例, *Progress of Digestive Endoscopy* 104 (1): 134-135, 2024.

## ■ 主題演題 ■

1. 小川眞広, 渡邊幸信, 金子真大, 小西彩, 平山みどり, 須田清一郎, 松本直樹, 中河原浩史, 山本敏樹, 木暮宏史: 消化器領域の造影超音波検査 (シンポジウム横断領域1/造影超音波の世界). 日本超音波医学会第97回学術集会, 横浜, 2024, 6
2. 小川眞広, 渡邊幸信, 松本直樹, 中河原浩史, 熊川まり子, 塩澤克彦, 南川里抄, 杉山尚子,

大城周, 木暮宏史: (パネルディスカッション消化器1 消化器領域の超音波検査のFusion機能の活用性). 日本超音波医学会第97回学術集会, 横浜, 2024, 5

## ■ 一般演題 ■

1. 芳賀大生, 中河原浩史, 井上隼輔, 河田洲, 大木庸子, 菊田大一郎, 金子桂士, 藤川博敏: 4Fr自然脱落型膵管ステントの形状による自然脱落期間の検討. 第110回日本消化器病学会総会, 徳島, 2024, 5
2. 小笠原康夫, 金子桂士, 河田洲, 中河原浩史, 藤川博敏: 腹腔鏡下幽門側胃切除後に吻合部出血と赤芽球瘻の鑑別に苦慮した1例. 第107回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2024, 5
3. 高橋肇, 中河原浩史, 桑林茉利奈, 田原真琴, 山口明子, 市川智士, 鈴木建則: 腹部超音波検査を契機に診断された未破裂胃大網動脈瘤の1例. 日本超音波医学会第97回学術集会, 横浜, 2024, 6
4. 高橋肇, 中河原浩史, 増田裕, 畑地健一郎: 腹部超音波検査を契機に診断された未破裂後上膵十二指腸動脈瘤の1例. 第63回日本消化器がん検診学会総会, 愛知, 2024, 6
5. 濱名傑, 中河原浩史: 腹部超音波検診で発見された若年男性の膵充実性偽乳頭状腫瘍の1切除例. 第63回日本消化器がん検診学会総会, 愛知, 2024, 6
6. 渡邊和希, 菊田大一郎, 河田洲, 芳賀大生, 金子桂士, 中河原浩史, 藤川博敏: EUS-FNAでも診断に苦慮した高齢男性のSolid pseudopapillary neoplasmの1例. 第118回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2024, 6
7. 芳賀大生, 中河原浩史, 菊田大一郎: 内視鏡治療が奏功した重症急性膵炎後の主膵管破綻症候群の一例. 第55回日本膵臓学会大会. 宇都宮, 2024, 7
8. 芳賀大生, 中河原浩史, 菊田大一郎, 井上隼輔, 河田洲, 金子桂士, 藤川博敏: 当院における内視鏡的経乳頭的胆嚢ドレナージ術の現状. 第108回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸, 2024, 10

## ■ 研究会関連 ■

藤川博敏: 医療安全を意識した院内肝炎拾い上げの取り組みとチーム医療について. 肝疾患オンラインセミナー, エムスリー, 神奈川, 2024, 11

金子桂士, 藤川博敏, 中河原浩史:

当院における肝炎ウイルス陽性例の拾い上げについて. 第49回神奈川ウイルス肝炎セミナー, 神奈川. 2025, 2

# ■ 外科 ■

## ■ 常勤医師 ■

院長補佐・外科主任部長：三松謙司

- ・ 医学博士
- ・ 日本外科学会 専門医・指導医
- ・ 日本消化器外科学会 専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医
- ・ 日本がん治療認定医機構 専門医
- ・ 日本内視鏡外科学会 技術認定医・評議員
- ・ 日本食道学会 認定医
- ・ 日本臨床栄養代謝学会 認定医・指導医・評議員
- ・ 臨床研修指導医

外科医長：吹野信忠

- ・ 医学博士
- ・ 日本外科学会 専門医
- ・ 日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医
- ・ 日本がん治療認定医機構 専門医
- ・ 臨床研修指導医

外科医長：小笠原康夫

- ・ 日本外科学会 専門医
- ・ 日本消化器外科学会 専門医・消化器がん外科治療認定医
- ・ 日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医
- ・ 日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医
- ・ 日本消化管学会 胃腸科専門医・指導医
- ・ 臨床研修指導医

外科専攻医：橋本大和

## ■ 施設認定 ■

- ・ 日本外科学会専門医修練施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
- ・ 日本がん治療学会認定医機構修練施設
- ・ 日本臨床栄養代謝学会 NST稼働認定施設

## ■ 外来担当 ■

2024年4月～2025年3月

	月	火	水	木	金
外科・消化器外科	小笠原 田中(非常勤)	吹野	三松	吹野 駒橋(非常勤)	三松 小笠原
乳腺外科		久保井 (非常勤)	久保井 (非常勤)	成井 (非常勤) PMのみ	

## ■ 外来統計 ■ (2024年4月～2025年3月)

外来患者数：7,544人／年（初診702人／年）

外来化学療法：65人／年、718回／年

## ■ 入院統計 ■ (2024年4月～2025年3月)

入院患者数（在院患者延数）：5,967人／年

新規入院患者数：425人／年

## ■ 手術統計 ■

疾患	2024年 (2024/1-2024/12)
胃・十二指腸・小腸	6 (2)
結腸・直腸・肛門	58 (45)
虫垂	27 (27)
腸閉塞・腹膜炎	20 (13)
肝・胆・膵	3
胆道結石	41 (41)
ヘルニア	57 (39)
乳腺	10
CVポート造設	15
その他	10
合計	247 (167)
	全症例（鏡視下手術）

## ■ 論文発表 ■

1. 窪田友紀, 三松謙司, 伊藤祐介, 吹野信忠, 上原秀一郎. W-ED チューブを用いた術前栄養管理が有用であった幽門狭窄胃がんの2症例. 口演, JSPEN 7 (1) : 29-35, 2025, 横浜.

## ■ 学会・研究会発表 ■

1. 窪田友紀, 三松謙司, 伊藤祐介, 吹野信忠. W-ED チューブを用いた術前栄養管理が有用であった幽門狭窄胃がんの2症例. 第39回日本臨床栄養代謝学会. 口演. 2024.2.15, 横浜.
2. 三井真実, 相澤聡一, 難波ひとみ, 伊藤祐介, 三松謙司. JCHO横浜中央病院NSTに所属する歯科医師, 歯科衛生士, 看護師および管理栄養士の口腔ケアに対する取り組み. 横中セミナー. 口演. 2024.6.3, 横浜
3. 橋本大和, 吹野信忠, 小笠原康夫, 三松謙司. 虫垂炎を契機に発見した肺腺癌盲腸転移の一例. GIコンgres横浜. 口演. 2024.10.3, 横浜.
4. Yuki Kubota, Kenji Mimatsu, Nobutada Fukino, Yasuo Ogasawara, Keiko Sato, Takeo Yamazaki, Mikiko Kumasaka. Oxaliplatin-induced thrombocytopenia in a patient with sigmoid colon cancer. 第62回日本癌治療学会学術集会. Poster発表. 2024.10.25 福岡.
5. 伊藤祐介, 三松謙司, 窪田友紀, 吹野信忠. 大腸切除術後食の栄養摂取量の検討. 第40回日本臨床栄養代謝学会. ポスター発表. 2025.2.14, 横浜

## ■ 研修会・講習会講師 ■

1. 三松謙司. 手順書の作成過程とその活用. 看護師特定行為研修指導者講習会. Web 2024.10.18
2. 三松謙司. 食べられなくなった時の栄養管理. NST地域医療研修会. 講演. 2025.3.29

## ■ 血管外科 ■

下肢静脈瘤に対しての血管内焼灼術（高周波焼灼術、塞栓術）、静脈瘤切除術を行っております。

特に令和4年度から最新の低侵襲手術である血管内塞栓術も導入しました。

下肢動脈閉塞症の診断や治療を循環器内科や血管診断技師などと連携して治療を行い、重症な下肢壊疽の回避や下肢切断の救肢を行います。

フットケア外来を開設しております。

腎臓・人工透析内科と連携して内シャント造設術も行っております。

### ■ 医師紹介 ■

柏崎 暁（血管外科部長・医学博士・日本外科学会 認定医・日本外科学会 外科専門医・日本胸部外科学会 専門医・下肢静脈瘤血管内焼灼術 実施医認定）

### ■ 外来診療担当医表 ■

月	火	水	木	金
	柏崎 暁	柏崎 暁		柏崎 暁

### ■ 診療内容・特色 ■

血管外科では下肢静脈瘤、深部静脈血栓症などの静脈性疾患や下肢の閉塞性動脈硬化症、慢性動脈閉塞による虚血性疾患、腹部大動脈瘤などの動脈性疾患に対しての血管治療を積極的に行っております。当科の特色として、下肢動脈閉塞症の診断や治療を循環器内科や血管診断技師などと連携して治療を行い、重症な下肢壊疽の回避や下肢切断の救肢を行います。

当科では腎臓・人工透析内科と連携して内シャント造設術も行っております。

横浜中央病院では「フットケア専門外来」を開設しております。閉塞性動脈硬化症や重症虚血肢の要因は、糖尿病・高血圧・喫煙・加齢といわれており、近年その患者数が増加傾向にあるのが現状です。足病変は、糖尿病神経障害や網膜症などの視力障害から、傷があっても気が付きにくく発見がおくれてしまうこと、血流障害により潰瘍になってしまうことで、傷が治りづらく治療が遅れてしまうことが重症化し、切断に至る大きな要因といわれています。当院ではチーム医療体制を採用して下肢局所疾患の予防、診断、治療（薬物、血管内治療、バイパス手術、局所皮膚処置など）を一人の患者に対して、それぞれの専門家（血管外科・循環器内科・皮膚科・整形外科・腎臓内科、専任看護師、検査技師）がお互いに協力し集学的治療を行っていきます。

### ■ 主な対象疾患・治療 ■

#### 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症

下肢静脈瘤は静脈弁がうまく働かなくなる、あるいは壊れることで発症し、下肢静脈がこぶのように異常に膨らんだ状態をいいます。根本的な治療のためには手術が不可欠です。自覚症状はない場合が多いですが、下肢がむくんだり、冷感、痛み、かゆみ、足がつるなどの症状が

出現したりすることもあります。悪化して下肢に皮膚炎や湿疹ができたり、皮膚が硬くなって色素沈着を生じたり、ひどいと潰瘍を形成したりします。このような状態を下肢静脈うっ滞症候群といい何らかの治療が必要となります。一般的な外科治療はストリッピング手術でしたが、最近ではレーザーや高周波を用いたカテーテルによる血管内焼灼術が主流となってきております。当院ではストリッピング手術、高周波焼灼カテーテルによる血管内手術にも対応しております。血管内焼灼術治療の場合、出血が少ないなど身体的な負担が少なく、再発率も低いことが大きなメリットとなっており、傷が小さくてすみ、局所麻酔と軽い全身麻酔だけで受けられるため麻酔リスクも低くなるという特徴があります。

下肢静脈瘤は①夕方にかげふくらはぎがむくむ ②就寝時にも足がよくつる ③足のかゆみが出る ④足に茶色い色素沈着ができた 等の症状がある場合は要注意です。

立ち仕事や腹圧がかかるような妊娠や便秘も原因となることがあります。

血管内焼灼術	<p>皮膚に開けた小さな開口部からカテーテルを対象静脈に挿入してカテーテルから放出されるエネルギーにより静脈を閉塞させてしまう治療です。体にはわずかな侵襲で治療ができます。</p> <p><b>【ラジオ波血管内焼灼術】</b> レーザーの代わりにラジオ波（高周波）を用いて静脈壁を焼灼する方法です。周囲組織がダメージを受けることなく、静脈壁をよりばらつきなく均一に焼灼できます。</p>
血管内塞栓術	シアノアクリレート系接着材による血管内治療で、局所麻酔下での手術が可能です。
ストリッピング手術	鼠径部や足首などに小さな切開を行い、原因の静脈を除去し、静脈瘤の切除や結紮術を行うことです。

深部静脈血栓症は深部静脈という下肢の中心にある静脈に血栓（血のかたまり）ができる病気です。重症の場合は入院治療をするエコノミー症候群の原因でもある病気です。診断のため血管エコーや静脈造影などを行います。治療としては血栓を溶解する薬や再発を予防する薬を投与します。発症早期の場合はカテーテルを使用して血栓を溶解する治療を行う場合もあります。

## 閉塞性動脈硬化症

最近注目されるようになった疾患で、間歇性跛行という歩行中に下肢に疼痛が生じることで発見されることが多い病気です。足の血管が狭窄や閉塞をきたすことで起こる病気ですが、高率に心臓病を合併することが報告されており診断検査の進歩から発見も増加しています。当院では常時ABIやSPPという足の血液の流れをみる機械や下肢の超音波検査で検査することが可能です。

必要ならMDCTやMRIなどを利用した動脈造影検査で診断します。さらに、薬物療法や運動療法で効果の得られない場合や重篤な血流障害から下肢が壊死に陥るような場合は手術が必要です。

PTA (EVT)	カテーテルを利用して、閉塞し狭窄した下肢の動脈などを拡張する血管内治療を循環器内科と協力して行っています。局所麻酔を行って治療するカテーテルを挿入しますが、挿入する場所は病変部位によって異なります。当院では主に鼠径部、上腕部、膝裏の血管を利用してカテーテル治療を行います。特に膝から下の下肢の治療、透析患者さんにも治療を行っています。
-----------	---

下肢バイパス手術	血管内治療（カテーテル手術）が施行不可能な症例や不成功例を中心に外科的にバイパス手術を行います。手術の術式は病変部位によって異なりますが、人工血管などを使用して閉塞した部位の迂回路（バイパス）を作成します。
----------	---

当院では、血管内治療（カテーテル手術）とバイパス手術のハイブリット手術も積極的に行っております。

### 腹部大動脈瘤

主に動脈硬化等に理由により、動脈が部分的に瘤状に膨れる病気を動脈瘤と呼びますが、中でも頻度として最も多いのが腹部大動脈瘤です。動脈瘤が大きくなると破裂して約9割の方が失血死しますので、非常に致死的で厄介な病気ですが、一般的には破裂するまで無症状で経過します。男性に多く、高血圧などの危険因子を持っている方の発症頻度は高くなります。腹部大動脈瘤の治療適応は、動脈径が4cm以上または短期間に動脈瘤が拡大する場合は手術の適応となります。

人工血管置換術	腹部を30cm程切開して大動脈の血流を一時的に遮断して、瘤の部分を人工血管で置き換える手術です。
---------	--

# ■ 整形外科 ■

## ■ 人員構成 ■

部 長 中島  
医 長 鷗ノ沢  
医 員 有田  
非常勤 徳橋 久保村 平山 只野

## ■ 診療内容 ■

当科では年齢層に関わらず骨折全般の治療を行っています。スポーツや事故による若年層の外傷から、高齢者の骨粗鬆症に伴う骨折まで、幅広い症例に対応可能です。また、脊椎、膝、股関節の変性疾患に対する手術治療も積極的に行っており、患者様の生活の質の向上を目指しています。

## ■ 統計 ■

### 【令和6年患者数実績】

外来新患者数	1841人
外来延べ患者数	10613人
新規入院患者数	515人
入院延べ患者数	13501人

### 【令和6年手術実績】

股関節 ORIF	54件
人工骨頭置換術	49件
上肢 ORIF	73件
下肢 ORIF	34件
その他外傷等（日帰り手術含む）	45件
抜去手術	36件
脊椎手術（頸椎、腰椎、外傷等）	38件
人工関節手術（膝、股）	14件

# ■ 脳神経外科 / 物忘れ外来 ■

## ■ 人員構成 ■

常勤2名、非常勤4名

### 脳神経外科

---

部長 山田 勝（脳神経外科専門医）

医員 篠田光紘（2024年4月～12月）

医員 半田 肇（2025年1月～）

非常勤医師 落合祐之（脳神経外科専門医）

非常勤医師 柴原一陽（脳神経外科専門医）

### 物忘れ外来

---

非常勤医師 佐々木 淳（2024.8月まで）

非常勤医師 菊田もなみ（2024.5月～）

## ■ 統計 ■

### 脳神経外科

外来延べ人数：4160人

入院患者数：192人

手術件数：26件

### 物忘れ外来

外来延べ人数（新患者数）：669人（35人）

## ■ 診療内容 ■

「断らない救急」をモットーに脳卒中、頭部外傷の救急疾患の受け入れを行っており、連携医である開業の先生方、救急隊からの要請に応えられるよう日々診療しております。

外来診療では、頭痛、めまい、麻痺などの診察を行い、脳卒中など頭蓋内疾患の有無を精査しております。頭蓋内疾患を認めた場合には、適宜手術加療の必要性の有無を判断し、診療を継続して参ります。頭痛に関しては、片頭痛に対する抗CGRP抗体製剤を導入し、発作予防の治療を開始致しました。

物忘れ外来では開業の先生方と連携し、認知症の有無の精査を行っています。治る認知症（正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫）での場合には脳神経外科での加療を行っております。

# ■ 泌尿器科 ■

## ■ 人員構成 ■

常勤医師 2名、嘱託医師1名  
非常勤医師2名

## ■ 業務内容・概要・特長 ■

尿路通過障害、排尿障害および泌尿器科領域の悪性腫瘍に対して手術を中心とした標準的治療を行っている。尿路通過障害、排尿障害の原因はさまざまであり、その原因と患者さんの状況にあわせて手術だけでなく薬物療法、理学療法を取り入れている。悪性腫瘍に対しては当院でできる最良の治療法を提示している。外来化学療法、緩和ケアも積極的に行っている。

- ①前立腺癌：生検、開放性手術、内分泌療法、化学療法、積極的経過観察
- ②尿路上皮癌（膀胱癌、腎盂尿管癌）：手術、化学療法（免疫療法）、BCG注入療法
- ③腎細胞癌：開放性手術、化学療法（分子標的薬治療、免疫療法）
- ④精巣腫瘍、副腎腫瘍：手術、化学療法
- ⑤尿路結石症：経尿道的手術、薬物療法
- ⑥尿路性器感染症（膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎、精巣上体炎、尿道炎）：薬物療法
- ⑦尿路性敗血症（結石性腎盂腎炎、気種性腎盂腎炎、腎膿瘍）：手術（ドレナージ）、薬物療法
- ⑧前立腺肥大症、過活動膀胱：手術、薬物療法、理学療法
- ⑨神経因性膀胱：薬物療法、理学療法
- ⑩尿失禁、骨盤内臓器脱：手術、薬物療法、理学療法
- ⑪先天奇形（水腎症、包茎など）：手術
- ⑫外傷（腎外傷、尿道損傷など）：手術、薬物療法

## ■ 統計 ■

外来総数 6885名 新患総数 482名  
手術件数 126件（別紙参照）

## ■ その他 ■

とくになし

● 2024年(1~12月)外来統計

のべ総数 6865名(7039) 新患総数 482名(484)

● 2024年(1~12月)手術統計

手術		全症例数	(A)腹腔鏡	(B)ロボット
副甲状腺	上皮小体摘除			
副腎	副腎摘除			
	原発性アルドステロン症			
	クッシング症候群			
	褐色細胞腫			
	無機能腺腫			
	悪性腫瘍 (転移性腫瘍を含む)			
	神経節腫			
	その他			
	腎尿管	根治的腎摘除		
腎摘除				
腎部分切除				
腎移植				
腎生検				
開放生検				
針生検				
腎尿管全摘除		1		
腎盂形成				
Endopyelotomy				
PNL				
腎瘻造設				
経皮的嚢胞穿刺				
腎盂切石・尿管切石				
TUL		2		
膀胱尿管逆流防止術				
尿管瘤切除				
尿管鏡		7		
ESWL				
尿管ステント	27			
後腹膜	後腹膜リンパ節郭清			
	後腹膜腫瘍摘除			
	後腹膜腫瘍・リンパ節生検			
	その他			
膀胱	膀胱全摘除-尿路変更	3		
	回腸利用新膀胱			
	禁制型パウチ			
	回腸導管	2		
	尿管皮膚瘻	1		
	その他			
	膀胱外照射			
	膀胱抗癌剤動注			
	膀胱部分切除			
	TUR-Bt, TUC	16		
	膀胱拡大術			
	膀胱瘻造設			
	尿管腫瘍摘除			
	膀胱切石			
	膀胱碎石(TUL)	1		
	膀胱瘤根治術			
	膀胱腔・直腸瘻閉鎖			
	その他			

手術		全症例数	(A)腹腔鏡	(B)ロボット
前立腺	根治的前立腺摘除			
	密封小線源療法			
	根治的前立腺外照射			
	被膜下前立腺摘除			
	TUR-P	5		
	TUEB			
	レーザー前立腺切除			
	高温度治療			
	尿道ステント留置			
	前立腺生検	49		
	UroLift	4		
尿道	尿道形成(尿道下裂)			
	尿道端々吻合			
	内尿道切開			
	尿失禁手術			
	尿道粘膜下コラーゲン注入			
	開放手術(MMK法等)			
	TVM only			
	TVM+TOT or TVT			
	TVT or TOT			
	その他			
	経尿道の尿道腫瘍切除			
尿道カルシウム切除				
その他				
単径陰嚢	単径ヘルニア根治			
	高位精巣摘除	1		
	精巣摘除			
	去勢術	3		
	精巣固定	1		
	精巣上体摘除			
	陰嚢水腫根治	3		
	精索腫瘍摘除			
	精液瘤摘除			
	精管結紮			
	精索静脈瘤結紮			
その他				
陰茎	陰茎腫瘍切除			
	環状切除	3		
	背面切開			
その他				
ブラッドアクセス造設				
CAPD				
その他	骨盤内臓全摘			
	骨盤内リンパ節郭清			
	女性外陰部形成術			
	Debridement			
	その他			
合計		126	0	0

## ■ 皮膚科 ■

特定の疾患に偏ることなく、できるだけオールラウンドな皮膚科診療を目指しています。

### ■ 医師紹介 ■

医師名・役職	認定医・専門医
黒羽根系一	・ 医長
鎌田 英明 ・ 非常勤医師	・ 医学博士 ・ 日本皮膚科学会 専門医

### ■ 外来診療担当医表 ■

月	火	水	木	金
鎌田 英明	鎌田 英明		鎌田 英明	鎌田 英明
黒羽根系一	黒羽根系一		黒羽根系一	黒羽根系一

### ■ 診療内容・特色 ■

一般外来診療は水曜日以外の平日午前のみになります（11時30分受付終了）。

診療は皮膚疾患一般に広く対応し、近隣の診療所から紹介される難治な症例、手術を必要とする良性、悪性の腫瘍など様々な疾患の患者さんが対象となっています。近年高齢化が一層進んだことも影響してか皮膚の悪性腫瘍の患者数も増加傾向にあり、90歳以上の手術例もまれではなくなってきました。良性の小腫瘍などは午後の外来予約手術で対応しています。

また、高齢化と共に近年増加傾向にある糖尿病患者にみられる糖尿病性壊疽などにおいて、できるだけ断肢に至らないように対応すべく、血管外科医、認定看護師、装具業者などと連携しながら診療を行う「フットケア外来」を金曜午後に特設して対応しています。

### ■ 実績 ■

月外来患者数	2024年度
新患	960人
再診	5,800人
合計	6,760人

手術件数	2024年度
外来	25件
入院	50件
合計	75件

## ■ 紹介時のお願い ■

緊急を除き、午前中の受付時間内（9：00～11：30）の受診をお願いします。

可能であれば、前日までに当院地域連携室宛てにご予約をいただければ、診療の待ち時間なども軽減されます。

なお、毎週水曜日は皮膚科休診日となりますので、ご配慮いただきますようお願いいたします。また、常勤医1名体制につき、入院が必要な疾患は他院を紹介させていただきます。

# ■ 眼科 ■

## ■ 人員構成 ■

診療部長 寺田 久雄 眼科専門医、医学博士  
非常勤医師 小熊 亜弥（水曜日外来）眼科専門医、医学博士  
原田奈月子（木曜日外来）眼科専門医  
視能訓練士 波田野裕美子  
看護師 1名（柳千代子、新谷裕子、中峰さゆり）  
事務クラーク1名（鶴見美登里、師岡真由美）

## ■ 施設認定 ■

日本眼科学会専門医制度 研修施設（第3157号）

## ■ 業務内容 概要 特徴 ■

### 診療内容

診療内容に関しては、白内障、緑内障、糖尿病網膜症などを含む一般眼科に対して診療を行っている。午後から予約制で、レーザー治療、視野検査、蛍光眼底撮影などの外来手術・特殊検査を行っている。なお、手術日は水木の午前である。

診療対応：一般眼科、抗VEGF硝子体内注射、ボトックス注射療法、弱視治療

手術対応：白内障（原則入院対応のみ、片眼 術前日午後入院、術翌日午前退院）、緑内障  
眼科レーザー（網膜疾患、緑内障）翼状片、眼瞼下垂、内反症、大人の斜視などの  
外眼部疾患、先天性鼻涙管閉鎖開放術

対応のできない疾患：

観血的手術の必要な網膜剥離、硝子体手術、黄斑変性に対する光力学療法、涙嚢鼻腔吻合術、屈折矯正手術、角膜移植、通常のコンタクトレンズ処方

### 主な外来治療・検査設備

レーザー光凝固装置、（YAG後発切開術は非定期の機器借用で対応）、  
眼底三次元画像解析装置（OCT）、眼底撮影カメラ（FA蛍光造影可能）、  
ゴールドマン視野計、ハンフリー自動視野計、角膜形状解析装置、  
スペキュラー角膜内皮撮影、光学的眼軸長検査装置、超音波検査装置

## ■ 統計 ■

### 外 来

1日平均患者数 約18人 うち新患 323名（紹介数39、逆紹介数48）  
検診眼底読影数 3,130件

### 主な手術・検査件数（2024年度）

白内障手術	88件	（平均年齢74.5歳）	
緑内障手術	1件	内反症手術	1件
YAG後発切開術	5件		
硝子体内注射	90件		
（AMD34、DME36、RVO20、 アイリーア64、ラニビズマブBS16、バビースモ10）			
網膜光凝固術	85件		
レーザー虹彩切開術	1件	SLT	0件
ボトックス注	8件	（眼瞼痙攣1、片側顔面けいれん1症例）	
カラー眼底撮影	938件	蛍光眼底撮影	37件
眼底三次元画像解析（OCT）	234件		
動的量的視野検査	54件	静的量的視野検査	162件

## ■ その他 ■

### 第32回横浜臨床医学会学術集談会

寺田久雄：「眼瞼けいれん」 令和6年12月7日 横浜崎陽軒にて

### 院内患者向け講演会

寺田久雄：糖尿病になったら眼科に行こう～網膜症～. CKD糖尿病健康教室  
令和6年12月3日

# ■ 放射線科 ■

## ■ 医師紹介 ■

長沼 通郎（放射線科部長・日本医学放射線学会 診断専門医）

## ■ 理念・目標 ■

我々、放射線科のスタッフは、患者の被ばく低減と安全性の確保に努めています。

- 医療事故の予防に努める。 ○医療被ばくの低減に努める。
- 他部門との連携を常に考える。 ○高い専門技術の習得に努力する。

## ■ 主な検査 ■

放射線科では、各種画像検査（一般撮影・透視検査・CT・MRI・血管造影など）を実施し、画像診断を行っています。

また、当院では健康管理センターを併設しているため、一般健診（胸部X線検査・胃X線検査）・マンモグラフィ（乳房撮影）・脳ドック（頭部MRI）などの撮影も行っていきます。

## ■ 診療内容・特色 ■

当院では、1.5テスラの高磁場MRIによる断層画像や血管撮影（MRA）並びに血流画像、多列CTによる3D画像などを利用した各診療科による診断や治療に対応しています。

MRI検査ではMRI画像の統計解析を用いたアルツハイマー病の早期診断（VSRAD）にも対応しもの忘れ外来の診断に利用しています。またMRI及びCT装置は地域医療連携推進のために近隣医療機関からの検査依頼にも随時対応しています。

## ■ 実績 ■

検査名	2023年	2024年
単純一般 (内 MMG)	27,163件 (535)	22,709件 (441)
造影一般	833件	678件
CT	11,118件	9,661件
MRI	2,782件	1,953件
血管造影	318件	297件
CT 共同利用	210件	177件
MRI 共同利用	341件	246件

# ■ 麻酔科 ■

## ■ 人員構成 ■

常勤医師2名：麻酔科診療部長・緩和ケアチーム部長 増田都志彦

日本麻酔科学会認定指導医・日本専門医機構認定麻酔科専門医・日本緩和医療学会認定医

ペインクリニック内科部長：久保田直人

日本麻酔科学会認定指導医・日本専門医機構認定麻酔科専門医・日本医師会認定産業医・医学博士

## ■ 施設認定 ■

麻酔科認定病院・緩和医療学会認定研修施設

## ■ 診療内容・概要・特徴 ■

モニター・薬剤・各種手技の進歩を積極的に取り入れ、安全で患者満足度の高い麻酔管理を心がけている。

また、術後鎮痛には硬膜外麻酔・持続静注のほか、エコー下末梢神経ブロックも積極的に行い、安全で質の高い術後鎮痛を重視している。

特に2024年度からは、術後の嘔気嘔吐対策と術後疼痛対策に注力している。

主に日本大学医学部麻酔科学教室とその出身の非常勤医師により、診療体制を確保している。

## ■ 統計 ■ 2024.4→2025.3

麻酔科管理手術症例数：742例

文責：増田

# 緩和ケアチーム部

## ■ 2024年度人員構成 ■

診療部長：増田都志彦 日本緩和医療学会認定医（麻酔科診療部長兼任）  
総合診療科医師：谷江 消化器内科医師：金子  
外科医師：吹野 歯科医師：相澤  
臨床心理士：増田 薬剤師：佐藤  
理学療法士：正田 歯科衛生士：三井  
緩和ケアリンクナース 副看護部長：高山  
看護師長：岡田 副師長：細谷 外来：林  
2B：宋 3B：菊地 3C：黒江 4B：横田 4C：清水  
地域ケアサービスセンター：中司  
管理課：長谷川  
栄養科：阿部 MSW：佐野

## ■ 診療内容・概要・特徴 ■

有菌・河合看護師退職により、2005年の緩和ケアチーム発足以来、初めてがん性疼痛・緩和ケアの認定看護師欠員でのチーム活動となった。

主にがん性疼痛の緩和ケアを主務とするが、腎不全・心不全・ASO・COPDの終末期など、非がんも対象としている。

外来日は月・金 午前。（受付としてはペインクリニック内科外来）

毎週木曜日午前、緩和ケア担当医・歯科医師が臨床心理士・薬剤師・リンクナースともに介入患者のグループ回診、各病棟のリンクナースと情報交換。その他の曜日は個別回診。

歯科口腔外科にも、口腔ケアなどで積極的に介入していただいている。

引き続き勉強会などを通じ、緩和ケア啓発を勧めて行く方針である。

また特例として1名のみペインクリニック領域（＝良性疾患）の疼痛管理を緩和ケアチームで対応している。

## ■ 統計 ■ 2024.4→2025.3

総介入数43 前年度からの継続5 新規依頼38 内訳：消化器6 呼吸器2

循環器7 総合診療3 泌尿器4 外科16 腎内1

転帰：翌年度への継続4（外来継続も含）死亡32

平均入院介入日数：18.1日 平均同時入院介入：2.18人 外来受診のべ39人

在宅復帰16 在宅復帰率37%（在宅医介入・施設入所も計上）

## ■ 総括 ■

年度初めに極端に新規依頼が途絶えた時期があった影響で、新規依頼数はやや減少。

在宅復帰率はCOVID-19の感染緩和もあり、増加した。

外科・循環器内科からの依頼が増加している。

来年度に向け、認定看護師の育成に注力している。

# ペインクリニック内科

## ■ 診療内容・概要・特徴 ■

ペインクリニックでは、週3回（午前中）の外来診療を行っている。入院患者の疼痛管理も行っている。治療対象は難治性疼痛全般で、主な対象疾患は脊椎疾患（腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症性神経根症等）、帯状疱疹関連痛、重症下肢虚血などである。近隣施設や当院他科からご紹介頂いている。近年、疼痛関連領域では様々な種類の鎮痛薬が使用できるようになり治療成績が向上している。薬物治療以外にも当科では積極的に神経ブロックに取り組んでいる。2015年11月当科に高性能超音波装置が導入され、超音波ガイド下の一般的な神経ブロックは安全、迅速、確実に施行できるようになった。また2021年5月にさらに高性能超音波装置が導入にされ、超音波ガイド下の高度な神経ブロックを提供できるようになった。現在では2/3以上の神経ブロックは超音波ガイド下に行われるようになった（星状神経節ブロック、腕神経叢ブロック、頸部神経根ブロック、傍脊椎ブロック等）。腰部神経根ブロックについては、従来通りレントゲン（X線）透視下で行っている。運動神経を含む神経ブロックには神経刺激装置を併用し、安全確実に「痛みの少ない」ブロックを実践している。筋膜リリースも超音波ガイド下に行っている。

## ■ 統計 ■

### ペインクリニック

外来患者数 1599人（内、初診患者数 206人）

### 外来における主なブロック件数

硬膜外ブロック	84件
X線透視下神経根ブロック	4件
エコーガイド下神経根ブロック	11件
エコーガイド下星状神経節ブロック	64件
エコーガイド下傍脊椎ブロック	142件
その他の神経ブロック	64件

## ■ 学会活動等 ■

日本区域麻酔学会認定ハンズオンワークショップインストラクター：久保田 直人  
2024年4月13日 ハンズオンワークショップ実技3 初心者コース 下肢  
日本区域麻酔学会 第11回学術集会

# ■ 歯科口腔外科 ■

## ■ 人員構成 ■

部長：相澤聡一 博士（歯学）

日本歯科専門医機構認定「口腔外科専門医」

日本有病者歯科医療学会認定 指導医・専門医・認定医・代議員

日本口腔科学会認定医

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士

ICD協議会認定 インфекションコントロールドクター（ICD）

歯科臨床研修指導医

医長：石川友美 博士（医学）

日本口腔外科学会認定「口腔外科認定医」

日本有病者歯科医療学会認定 専門医・認定医

日本歯科麻酔学会認定 認定医

歯科医師臨床研修指導医

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

当科は、第一線医療機関より紹介された患者を中心に、

1. 顎口腔の炎症（骨吸収抑制薬関連顎骨壊死を含む）
2. 顎口腔の嚢胞
3. 顎口腔の腫瘍
4. 顎口腔の外傷
5. 口腔粘膜疾患
6. 顎口腔領域の神経疾患（精密触覚機能検査を含む）
7. 抜歯（困難な親知らずや埋伏歯、残根、癒着歯等）
8. 歯科矯正関連の外科処置（抜歯や舌小帯切除）
9. 歯科インプラント

などの外科的加療が必要な疾患を対象に顎口腔領域における、ほぼすべての疾患を対象に診療を行っている。

一般歯科治療では、併存疾患（心疾患・脳血管障害・代謝性疾患など）のある、いわゆる有病者に対して、入院・外来を問わず、医科の各診療科と連携し、安全に歯科治療を患者へ提供できるように取り組んでいる。

また当科は、以下のようなことにも取り組んでいる。

- ・ 医師会、歯科医師会、地域の登録医との連携
- ・ 厚生労働省歯科医師臨床研修施設として歯科医師の卒後臨床研修。
- ・ 日本口腔外科学会認定 准研修施設として、日本口腔外科学会認定「口腔外科認定医」や「口腔外科専門医」の養成さらには日本有病者歯科治療学会認定 研修施設として日本有病者歯科治療学会認定 認定医、専門、指導医の養成にも注力して、関連施設である日本大学医学部 歯科口腔外科と連携して、当科から口腔外科専門医2名、口腔外科認定医5名、日本有病者歯科医療学会認定 指導医2名、専門医3名、認定医5名が誕生しています（2025年3月現在）。
- ・ 病棟看護師への口腔ケア指導

## ■ 統計 ■ (任意)

### 入院手術症例数

項 目	件数
歯槽外科手術	77件
消炎手術	1件
良性腫瘍・嚢胞・腫瘤形成性疾患等の手術	57件
上顎洞関連手術	4件
癌／前癌病変関連手術	6件
顎顔面外傷手術	3件
合 計	148件

### 外来診療実績

項 目	件数
初診患者数	538件
紹介患者数	368件

## ■ 業績目録 ■ (学会発表、講演、論文等)

### ・学会発表

○第34回 日本有病者歯科医療学会 総会・学術大会

上顎歯槽部に腐骨形成を伴ったメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の1例

石川友美・相澤聡一 他

2025年3月15日 東京

### ・論文発表

# ■ 総合診療科 ■

## ■ 人員構成 ■

常勤3人

令和6年4月から令和7年3月までの総合診療科

外来のべ患者数 1,412名（初診患者数：418名, 月平均35名）

入院新患患者数 366名（月平均31名）

### 部長 藤川博敏

- ・ 医学博士
- ・ 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- ・ 日本消化器病学会指導医・専門医・評議員
- ・ 日本肝臓学会指導医・専門医・東部会評議員
- ・ 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
- ・ 総合診療専門研修 特任指導医
- ・ プログラム責任者講習会修了
- ・ 肝疾患コーディネーター
- ・ 緩和ケア研修会修了
- ・ 日本大学医学部 消化器肝臓内科 兼任講師
- ・ 鶴見大学歯学部 内科学 兼任講師

### 医長 神田弘太郎

- ・ 内科認定医
- ・ 日本循環器学会専門医
- ・ 総合診療専門研修 特任指導医

### 医員 谷江智輝

- ・ 日本専門医機構認定内科専門医
- ・ 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医
- ・ 日本結核・非結核性抗酸菌症学会 結核・抗酸菌症認定医
- ・ 日本人間ドック・予防医療学会 人間ドック健診情報管理指導士
- ・ 日本女性心身医学会 更年期指導士
- ・ 日本救急医学会 ICLS コースインストラクター
- ・ 日本内科学会 JMECC インストラクター

## ■ 症例報告 ■

- ・ 谷江智輝, 小澤康太, 神田弘太郎, 藤川博敏 : 救急外来に胸痛を主訴に受診し, 自然気胸と診断した中年男性の1例, 診断と治療, 113 (1) :129-133, 2024.
- ・ Tomoki Tanie, Kota Ozawa, Kotaro Kanda, Hirotooshi Fujikawa: Blue vomit as a clue to diagnosing flunitrazepam overdose.JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 6 (5) :26-130, 2024.
- ・ Tomoki Tanie, Kota Ozawa, Kotaro Kanda, Takaharu Yahata, Hirotooshi Fujikawa: Multiple Myeloma Associated with Effort Angina Pectoris Diagnosed from the Dissociation between Serum Total Protein and Albumin Levels: A Case Report. JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 7 (1) :3-7, 2025.
- ・ Tomoki Tanie, Kota Ozawa, Kotaro Kanda, Hirotooshi Fujikawa: Bladder Diverticulum as the Cause of Abdominal Distention: A Short Case Report. JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 7 (1) .19-20, 2025.
- ・ Tomoki Tanie, Miyuki Makino, Kota Ozawa, Yusuke Ito, Kotaro Kanda, Hirotooshi Fujikawa, Koji Oiwa:Hyperosmolar Hyperglycemic Syndrome in a Very Older Patient Treated in Collaboration with Multiple Specialists: A Case Report. JOURNAL OF HOSPITAL GENERAL MEDICINE, 7 (2) .50-54, 2025.

## ■ 一般演題 ■

- ・ 谷江智輝, 小澤康太, 神田弘太郎, 藤川博敏, 牧野幸, 伊藤祐介, 大岩功治 : 多職種と連携し治療にあたった超高齢者の高血糖高浸透圧症候群の1例. 日本内科学会 第700回関東地方会, 東京, 2024.11
- ・ 谷江智輝, 小澤康太, 神田弘太郎, 八幡貴治, 藤川博敏 : 総蛋白とアルブミン値の乖離を契機に診断しえた労作性狭心症に合併した多発性骨髄腫の1例. 第29回日本病院総合診療医学会学術集会, 東京, 2024.9

## ■ 著書 ■

- ・ メディカ出版 消化器ナーシング2024年秋季増刊「急性期から終末期まで がん看護の最新知識 消化器がんコンプリートBOOK」(胃がん薬物療法、大腸がん薬物療法の項を執筆)
- ・ 日本医事新報社 週刊日本医事新報 5254号 「臨床腫瘍学を学んで [炉辺閑話]」

外来診療は、紹介予約制としております。

月	火	水	木	金
	神田弘太郎	神田弘太郎	谷江 智輝	

平成30年4月から総合診療科を立ち上げました。

当院の総合診療科は、地域の先生方や介護施設の皆さまからご紹介いただいた患者さまを、基本的にお断りせずにお受けすることを大切にしています。

いわゆる診断のつかない症例に対して症候学や診断学で迫るGeneralistではなく、医療・介護・福祉を総合的に俯瞰した診療を目指しています。また当院には地域包括ケア病棟が50床あり、総合診療科はこの地域包括ケア病棟を積極的に活用し、主介護者の負担軽減を目的としたレスパイト（小休止）入院を行っております。

具体的にはいわゆる common disease である高齢者の誤嚥性肺炎・尿路感染症・褥瘡感染、在宅生活が困難な方の社会的な支援調整、COVID-19感染後で食事がとれなくなった方の栄養管理、がん終末期における痛みのコントロールなど、外来・在宅診療では十分な対応が難しいケースの受け入れを行っており、院内チーム（NST・緩和ケア・褥瘡管理）、医師・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカー・栄養士・理学療法士・ケアマネジャーなどの多職種連携を大切にしています。また、ご紹介いただいた先生との退院前カンファレンスの開催も積極的にご提案しております。

時間の限られた外来診療や在宅診療において、複雑な背景をお持ちの患者様に対応する際に、入院という機会を設けることによって、時間をかけて患者様やご家族様に寄り添った関り方を考えるお手伝いが出来ると考えて活動しております。

診療科の枠にとらえにくい患者さまや、在宅医療や介護の現場では対応が難しい患者さまにつきまして、急性期、慢性期に関わらずご相談ください。

# ■ 臨床研修 ■

## ■ 初期臨床研修医について ■

研修プログラム責任者 副院長 大岩功治

副責任者 診療統括部長 藤川博敏

## ■ 研修医構成 ■

初期臨床研修医 2023年度生

1. 渡辺 和希
2. 濱田優太郎
3. 平本 智子
4. 前田 隆俊

初期臨床研修医 2024年度生

1. 篠崎 颯大
2. 内山 圭乃
3. 赤沼 憲一
4. 飯塚 雅文

## ■ 研修プログラムの特徴 ■

●少人数制。(1学年4名の研修医)

●地域医療と救急医療に重点を置いている。

- ・救急医療：横浜市2次救急拠点病院として、横浜中央地域で年間約3500台の救急車を受け入れ、豊富な症例を経験できる。
- ・地域医療：院内の地域総合診療科（地域連携の中心の診療科）と地元医師会の連携施設（10施設）から選択実習する。地域包括ケアシステムを実践する研修が特徴。

2024年度研修医のプログラム 1年目

横浜中央病院 1年目研修医ローテーション表

1年目	4/1~5/26	5/27~7/21	7/22~9/15	9/16~11/10	11/11~12/8	12/9~1/5	1/6~3/2	3/3~3/31	
赤沼DR	内科3 2週間 (腎臓内科 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	内科3 2週間 (循環器内科 8週間)	内科3 2週間 (消化器内科 8週間)	救急科12週 (泌尿器科4週間)	外科12週間 (泌尿器科4週間)	救急科1 2週間 (外傷救急・整形外科合計8週間)	救急科1 2週間 (内科救急4週間)	
飯塚DR	内科3 2週間 (消化器内科 8週間)	内科3 2週間 (循環器内科 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	内科3 2週間 (呼吸器内科 8週間)	救急科1 2週間 (内科救急4週間)	救急科1 2週間 (麻酔科4週間)	外科12週間 (泌尿器科4週間)	地域医療8週間 (総合診療科4週間)	外部研修期間 (産婦人科、小児科、精神科)
1年目	4/1~5/26	5/27~7/21	7/22~9/15	9/16~11/10	11/11~12/8	12/9~1/5	1/6~3/2	3/4~3/31	
内山DR	内科3 2週間 (循環器内科 8週間)	内科3 2週間 (呼吸器内科 8週間)	内科3 2週間 (腎臓内科 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	救急科1 2週間 (外傷救急・整形外科合計8週間)	救急科1 2週間 (麻酔科4週間)	救急科1 2週間 (内科救急4週間)	外科12週間 (泌尿器科4週間)	
篠崎DR	内科3 2週間 (呼吸器内科 8週間)	内科3 2週間 (腎臓内科 8週間)	内科3 2週間 (消化器内科 8週間)	救急科1 2週間 (外傷救急・整形外科合計8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	救急科1 2週間 (内科救急4週間)	外科12週間 (泌尿器科4週間)	救急科12週 (麻酔科4週間)	

## 2023年度研修医のプログラム 1年目

2023年度より期間を、週間単位に変更する。

1年目	4/3~5/28	5/29~7/23	7/24~9/17	9/18~11/12	11/13~12/10	12/11~1/7	1/8~2/4	2/5~3/3	3/4~3/31
濱田	内科3 2週間 (腎臓内科 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	内科3 2週間 (循環器内科 8週間)	内科3 2週間 (消化器内科 8週間)	救急科12週 (麻酔科 4週間)	外科12週間 (泌尿器科 4週間)	救急科1 2週間 (外傷救急・整形外科 合計 8週間)		救急科1 2週間 (内科救急 4週間)
平本	内科3 2週間 (消化器内科 8週間)	内科3 2週間 (循環器内科 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	内科3 2週間 (呼吸器内科 8週間)	救急科1 2週間 (内科救急 4週間)	救急科1 2週間 (麻酔科 4週間)	外科12週間 (泌尿器科 4週間)	地域医療 8週間 (総合診療科 4週間)	外部研修期間 (産婦人科 小児科 精神科)
前田	内科3 2週間 (循環器内科 8週間)	内科3 2週間 (呼吸器内科 8週間)	内科3 2週間 (腎臓内科 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	救急科1 2週間 (外傷救急・整形外科 合計 8週間)	救急科1 2週間 (内科救急 4週間)	救急科1 2週間 (麻酔科 4週間)		外科12週間 (泌尿器科 4週間)
渡邊	内科3 2週間 (呼吸器内科 8週間)	内科3 2週間 (腎臓内科 8週間)	内科3 2週間 (消化器内科 8週間)	救急科1 2週間 (外傷救急・整形外科 合計 8週間)	外科3 2週間 (一般外科・消化器外科 8週間)	救急科1 2週間 (内科救急 4週間)	外科12週間 (泌尿器科 4週間)		救急科12週 (麻酔科4週間)

### ■ 研修プログラムについて ■

初期臨床研修医 研修方法について EPOC2を利用した入力

- 1) 評価の方法：評価の確認：各診療科研修期間終了後1ヶ月以内に自己評価を行うとともに、指導医にも評価をいただく。またスタッフドクターにもできる限り評価をいただくこと。
- 2) miniCEX DOPS CbDを履行がされていること  
各診療科で1度は行うことを推奨する（どの項目を行うかは指導医判断もありますので）
- 3) 症例登録について

症例や症候については、経験したらすぐにエポックに登録を行うこと。

また下記29+26の症状や症例については病歴要約を作成すること。但し考察については要領よくまとめて、文献を丸写しすることは避けるように

病歴要約作成症例と病態・症状：

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常 下痢・便秘、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害 尿失禁・排尿困難、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿管結石、腎不全、エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

作成の時期はできる限り関連する診療科を研修中に記載して、指導医に提出すること

- 4) 一般外来について

一般外来での研修については、4週以上の研修を修了すること。

内科系、外科系で外来診療のある診療科のうち、専門外来以外での外来が該当する。

ただし、当直時間帯での外来診療は該当しないが、日勤時間内の救急対応については記載できる。

- 5) 必須項目である感染対策、予防医療、虐待、社会復帰支援、緩和ケア、アドバンス・ケア・プランニング（ACP・人生会議）、臨床病理検討会（CPC）について2年間に必ず一度は履行すること。

## 6) 地域医療について

総合診療科1ヶ月以外の期間は診療所を2箇所から選択していただく。

その際にできる限り在宅医療の研修を含めること。もし未経験な場合は、当院訪問看護ステーションにて在宅医療の研修を行う。

7) 選択科の希望は最初の1年度の12月末を目安に研修委員会に提出のこと。

8) 以下の基本的手技などは必ず実施し、自己評価、指導者評価をEPOCに入力すること。ただしこの場合繰り返しの鍛錬によって複数回行うことを推奨する。①気道確保、②人工呼吸（バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気を含む）、③胸骨圧迫、④圧迫止血法、⑤包帯法、⑥採血法（静脈血、動脈血）、⑦注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）、⑧腰椎穿刺、⑨穿刺法（胸腔、腹腔）、⑩導尿法、⑪ドレーン・チューブ類の管理、⑫胃管の挿入と管理、⑬局所麻酔法、⑭創部消毒とガーゼ交換、⑮簡単な切開・排膿、⑯皮膚縫合、⑰軽度の外傷・熱傷の処置、⑱気管挿管、⑲除細動、○20血液型判定・交差適合試験、○21動脈血ガス分析（動脈採血を含む）、○22心電図の記録、○23心臓・腹部超音波検査

※

- ・研修期間中に年最低1回はフィードバックを含め面談を行う
- ・学会や研究会での発表を推奨する。
- ・CPCは必ず1症例は発表すること
- ・研究会や学会の出席もエポックに登録すること
- ・当直研修 年4回を基本とするが増減あり

## ■ 関連施設 協力施設 ■

### ●病院群：4施設

横浜市立大学付属市民総合医療センター、横浜市立みなと赤十字病院、日本大学医学部附属板橋病院、牧田総合病院（産婦人科）

### ●地域医療群：10施設（保健センターは必須）

秋山眼科医院、かめのはしクリニック、医療法人真正会・新妻クリニック、渡辺皮膚科クリニック、石川クリニック、ザ・ブラフメディカル&デンタルクリニック 向山小児科医院、医療法人創祥会・小菅医院、医療法人社団・山崎医院、横浜市中福祉保健センター

## ■ 指導医情報 ■

●医師数 常勤医師 52名

●非常勤医師 42名

### ●専門医

総合内科専門医5名 日本外科学会専門医3名、指導医1名 日本循環器学会専門医5名 日本消化器病学会専門医6名、指導医3名 日本整形外科学会専門医2名 日本泌尿器学会専門医3名、指導医2名 日本麻酔科学会専門医2名 日本腎臓学会専門医、指導医1名 日本消化器外科学会専門医2名 日本消化器内視鏡学会専門医3名、指導医2名 日本がん治療認定医3名 日本皮膚科学会専門医1名 日本高血圧学会専門医1名、指導医1名 日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、指導医1名 日本糖尿病学会専門医1名、指導医1名 日本口腔外科学会専門医1名 日本急性血液浄化学会、指導医1名 日本眼科学会専門医1名、指導医1名 日本リウマチ学会専門医1名、指導医1名 日本アレルギー学会専門医2名 日本肝臓学会専門医3名 日本脳神経外科学会専門医1名 日本プライマリケア連合学会認定医1名、指導医1名 日本内視鏡外科学会認定医1名 日本呼吸器内視鏡学会専門医1名

日本呼吸器学会専門医1名 日本透析医学会専門医1名

### ●施設認定

日本内科学会認定教育関連施設、日本外科学会専門医修練施設、日本整形外科学会専門医修練施設、日本泌尿器学会関連教育施設、日本麻酔科学会研修施設、日本腎臓学会認定施設、日本循環器学会専門医研修認定施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本透析医学会教育関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本皮膚科学会専門医研修施設、日本糖尿病学会認定施設、日本アレルギー学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本口腔外科学会準研修施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本消化器がん検診学会指導施設、日本総合健診医学会・人間ドック学会研修施設、日本脳ドック学会認定施設、日本乳がん検診制度管理中央機構マンモ検診認定施設

### ■研修終了式■

2023年度生の卒業式 2024年3月末に施行 4名の研修医の卒業となる



# ■ 健康管理センター ■

## ■ 人員構成 ■

職員総数	18名
部長	櫻井 由美
非常勤医師	阿部 政直
非常勤医師	今武 和弘
非常勤医師	和泉 徹
非常勤医師	山本 忠男
非常勤医師	勝呂 元
非常勤医師	山元 久子
非常勤医師	宮路 裕子
非常勤医師	鳥谷 葉子
非常勤医師	加藤果野子
非常勤医師	高橋 里香

保健師 2名

看護師 3名（常勤看護師1名・非常勤看護師2名）

事務員 9名（正職員5名・派遣職員2名・非常勤2名）

※その他、臨床検査科、放射線科、外科、眼科、婦人科など各種診療部門・医療技術部門の協力を得て各種健診に対応

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

前年度同様、健診会場の換気・消毒や職員の毎日検温サーベイランスを行い感染対策に努め、また受付時に健診者様へ体調確認を行い安全に実施できるよう取り組んでいます。

利用者様の疾病の予防、早期発見に結びつけるための生活習慣病予防健診、人間ドック、労働安全衛生法に基づく法定健診、特定健康診査、各種職業病検査および、保健指導や健康管理業務を行っています。

当センターは乳がん検診と婦人科検診は、スタッフ全員（医師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師）を女性とし利用者に配慮しています。

今後もより快適により便利により質の高い健康診断、保健指導サービスの提案・実施も継続して実施できるようスタッフ一同努めています。

## ■ 主な契約 ■

全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施医療機関

横浜市国民健康保険特定保健指導実施機関

保険者および事業所との直接契約

集合契約 A・B

## ■ 主な認定 ■

日本病院会人間ドック優良施設  
日本脳ドック学会認定施設  
人間ドック健診専門医研修施設  
マンモグラフィ検診施設  
日本消化器学会がん検診認定指導施設

## ■ 主な事業 ■

### ①人間ドック・各種健康診断

生活習慣病予防健診・※泊ドック・日帰りドック・法定健診・特殊健診・特定健診をおこなうための契約・予約・実施・診断・結果表作成・請求・事後フォロー  
※令和2年度より休止

### ②特定保健指導

特定健診受診後の動機付け支援・積極的支援および、生活習慣病改善の保健指導

### ③二次検査

健康診断結果で異常所見者に対するの診療部門への予約、紹介、二次検査実施

### ④産業医業務

訪問・職場内巡視・安全衛生委員会の出席・メンタルヘルスに関する相談業務・過重労働者の面接・書類作成・健診後の事後措置

### ⑤職員の健康増進

職員健診の実施やワクチン接種、健康増進のための健康教室、YKLの発行、ストレスチェック後のフォロー、健康相談などを行い健康に対する啓発活動

### ⑥講演

健康教室の企画・運営、企業や地域等から医療・健康に関する講演依頼を受け実施

### ⑦統計・分析

年間実績や統計書を作成・分析の他、研修会や学会での報告

### (※1) 【年間利用者内訳】

生活習慣病予防健診	6,936名
日帰りドック	2,030名
一泊ドック	0名
定期健診（法定健診等）	3,721名
乳がん・子宮がん検診	1,671名
脳ドック	136名
特定健診（単独）	303名
特殊健診	172名
その他健診	344名
二次検査	102名
特定保健指導	87件

年間総利用者数 15,502名

月平均利用者数 1,292名

1日平均利用者数 64.6名

# 醫療技術部門

# ■ 薬剤部 ■

## ■ 人員構成 ■

薬剤部長1名、主任薬剤師1名、薬剤師9名、事務職員2名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

- ①処方箋監査・調剤・鑑査・鑑査（個人別セット）
- ②注射処方箋監査・調剤（個人別セット）
- ③薬剤管理指導業務
- ④医薬品情報管理
- ⑤医薬品管理（麻薬を含む）
- ⑥抗悪性腫瘍剤の無菌調製
- ⑦製剤
- ⑧高カロリー輸液の無菌調製
- ⑨日当直業務
- ⑩持参薬鑑別

## ■ 統計 ■ （件数等）

項 目	2022年度	2023年度	2024年度
薬剤管理指導	4,085件	4947件	6949件
外来院内処方箋発行枚数	7,551枚	6865枚	7418件
外来院外処方箋発行枚数	58、692枚	57331枚	54511枚
院外処方箋発行率	89%	89%	88%
外来注射箋発行枚数	15591枚	18147枚	19420枚
入院処方箋発行枚数	36164枚	38784枚	39074枚
院内注射箋発行枚数	57423枚	61098枚	72736枚

項 目	2022年度	2023年度	2024年度
薬剤管理指導	4085件	4947件	6949件
無菌製剤（高カロリー輸液）	324件	359件	468件
化学療法混注件数	366件	439件	592件
化学療法混注件数（外来）	340件	419件	540件
化学療法混注件数（入院）	26件	20件	52件
外来腫瘍化学療法診療料算定件数	272件	444件	462件

「1日平均」 外来院内処方箋 約18枚、救急外来処方箋 約6枚  
外来院外処方箋 約238枚、院外処方箋発行率 約90%  
入院処方箋 約106枚  
入院注射箋 約184枚

「1ヶ月平均」薬剤管理指導料算定件数 約398件  
抗悪性腫瘍剤の無菌調製件数 入院 約2件・外来 約35件  
高カロリー輸液の無菌調製件数 約39

## ■ その他 ■

医薬品安全管理責任者を薬剤副部長が兼務。

ICT、NST、褥瘡、DM・CKD、化学療法、緩和ケアなど各種チームに所属。

糖尿病教室などに参加。

抗菌薬適正使用支援加算算定開始

★日本糖尿病療養指導士 1名

★NST 臨床実地修練 修了 2名

★日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 2名

★スポーツファーマシスト 1名

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 2名

日本病院薬学認定薬剤認定薬剤師1名

肝炎医療コーディネーター 2名

# ■ 臨床検査科 ■

## ■ 基本理念 ■

1. 医療従事者としての自覚を持ち、精度の高い検査結果を迅速に提供すると同時に、質の高い医療を患者様に寄与することを目標としております。
2. 外部精度管理調査に積極的参加し検査の標準化と精度向上を目指しています。
3. 日進月歩、変化していく医療体制に適応し高いスキルや豊富な知識を取得する努力を怠りません。

## ■ 人員構成 ■ (勤務体系含む)

臨床検査技師 常勤 16名 非常勤 2名 完全2交代制

看護師1名 (中央採血室)・受付事務員1.5名 (中央採血室・生理機能検査室)

## ■ 部門別業務内容 ■

### 生理検査部門

---

- ・心電図検査 (一般ECG・ホルターECG・負荷ECG)・トレッドミル検査
- ・超音波検査 (消化器領域・循環器領域・皮膚科領域・乳腺領域・血管領域、ファイブロスキャン)
- ・呼吸機能肺機能検査・脳波検査・脈波検査・経皮酸素分圧測定検査・中心動脈圧検査・睡眠時無呼吸検査
- ・医師との連携：肝生検RFA波介助

### 検体検査部門 (基本的に自動分析装置を使用)

---

- ・生化学・免疫検査・血液ガス分析
- ・血液・輸血検査
- ・RBC-LR 1374単位 ・FFP-LR 146単位・PC-LR 410単位
- ・尿一般定性・沈査検査・便中ヒトヘモグロビン検査
- ・その他外注検査分注など

### 細菌検査部門

---

- ・一般細菌検査 (塗沫培養同定感受性)・抗酸菌検査 (塗沫培養)
- ・迅速診断検査 (CD抗原トキシン、マイコプラズマ抗原、A群溶連菌抗原など)

### 病理組織・細胞診検査部門

---

- ・病理組織診断検査 (内視鏡検体・手術検体)・術中迅速診断検査
- ・各種細胞診検査
- ・各診療科に対応した適切な検体採取及び固定など

### 採血部門 看護師と連携

---

- ・外来指示採血
- ・病棟採血オーダー未来日予約分採血管作成

## ■ その他 ■

- ・ 精度管理調査に参加している団体名  
日本医師会精度管理調査  
日本臨床衛生検査技師会精度管理調査  
神奈川県臨床衛生検査技師会精度管理調査
- ・ 認定資格  
超音波検査士4名（消化器領域4・循環器領域3・表在領域1）、  
血管診療技師1名、細胞検査士1名、国際細胞検査士1名、  
日本糖尿病療養指導士3名、輸血認定技師1名、医療情報技師1名
- ・ 認定施設  
日本臨床検査技師会精度保障制度  
精度保証施設認証取得

# ■ 放射線部 ■

## ■ 人員構成 ■

放射線科画像診断医	1名	
診療放射線技師	12名	非常勤 1名
医療介助員	1名	
事務員	1名	

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

放射線部には、業務に従事する常勤画像診断医師1名、診療放射線技師12名が在籍しており、胸腹部撮影および整形領域などのX線撮影やマンモグラフィ・CT・MRI・血管撮影検査などの画像検査、また放射線科医師による画像診断を行っている。高額機器共同利用（CT・MRI）では、近隣医療施設からの紹介を即日読影診断も含め対応している。また予防医学においても胸部X線検査、胃バリウム検査、オプション検査として肺がんCT検診・内臓脂肪CT・検診脳ドックを行っている。高額機器共同利用ではCT検査・MRI検査を地域医療連携室と通じて受け入れている。外部への医療情報提供や他院で施行された撮影画像の取り込みを介助員1名で対応しております。

放射線部内目標として ① 安全管理の徹底 ② 放射線撮影技術の向上 ③ 地域医療との連携を掲げています。日頃から安全管理を徹底して、検査説明を含め患者様に安心安全な放射線検査を提供できるよう努めています。また各検査における認定取得を奨励し、技術と質の向上も進めております。今後も資格認定取得や、各業態により開催される研修会への積極的な参加など、さらなる技術の向上およびチーム医療の一員として病院業務に貢献いたします。

## ■ 認定制度取得人数 ■

X線CT認定技師	1名
肺がんCT認定技師	1名
磁気共鳴技術者認定	1名
マンモグラフィ撮影認定技師	3名
胃がん検診専門技師	2名
放射線管理士	2名
放射線管機器理士	2名
医療画像情報精度管理士	1名

■ 統計 ■ (2024年度)

	一般検査 (件)		CT検査 (件)		MRI検査 (件)	
	単純	造影	単純	造影	単純	造影
外来	16185	118	7672	1264	1779	93
入院	10260	690	2231	391	433	14
時間外	4213	69	2970	145	31	0

血管造影 (件)			
頭部	7	心臓 (冠動脈)	275
腹部	12	心臓 (その他)	/
下肢血管	39	その他	12

共同利用 (件)	
CT	193
MRI	271

一般検査		院内検診 (件)				検診車 (件)	
胃部	MMG	胸部	胃部	MMG	脳健診	胸部	胃部
48	518	9714	3318	893	130	/	/

# ■ 栄養管理室 ■

## ■ 人員構成 ■

主任管理栄養士 川崎志穂  
管理栄養士 尾崎和江  
伊藤祐介  
阿部茉耶  
石川あゆみ  
宮平杏奈

給食委託会社 管理栄養士・栄養士 3名  
調理師 3名  
調理補助 20名

## 認定資格

- ・日本栄養士会 特定分野認定制度 TNT-D管理栄養士 (3名)
- ・日本摂食嚥下リハビリテーション学会 学会認定士 (1名)
- ・NST専門療法士 (1名)
- ・日本糖尿病療養指導士 (2名)
- ・腎臓病療養指導士 (1名)
- ・腎代替療法専門指導士 (1名)

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### 栄養管理室の概要と特徴

栄養管理室では、各病棟に担当管理栄養士を配置し、ミールラウンドや多職種カンファレンスを通して「食べること」をサポートしています。特に、摂食嚥下障害がある患者様や疾病等によって食欲不振となった患者様には、さまざまな食事対応を行っています。

入院中の患者様には、退院後の食事療法などについて随時栄養相談を実施しています。地域包括ケア病棟に入院された患者様とご家族への栄養相談も行っており、施設等に転院される際には、転院先でも栄養管理を継続していただけるよう「栄養サマリー」を発行しています。また、外来通院中の患者様にも、外来での栄養相談を実施し、自宅でも食事療法を継続していただけるようなサポートを行っています。地域の医療機関からの外来栄養相談も受け付けておりますので、当院地域ケアサービスセンター、地域連携室へご連絡下さい。

管理栄養士は院内のチーム医療にも参加し、糖尿病教室における食事療法の講義や、褥瘡対策チームや緩和ケアチームでの回診、透析カンファレンスなど。特に、栄養サポートチーム (NST) では、静脈栄養や経腸栄養から経口摂取に移行するまでの様々な段階での栄養管理に携わり、在宅でも安心して栄養管理が継続できるようなお手伝いをしていきたいと考えております。患者様の栄養管理でお困りの際は、ぜひご相談ください。

## 主な業務内容

- ・ 入院患者への食事の提供
- ・ 入院患者の栄養管理
- ・ 入院および外来患者に対する食事栄養相談の実施
- ・ チーム医療（NST、褥瘡、糖尿病、心不全、緩和ケア、化学療法）への参加
- ・ 特定保健指導
- ・ 糖尿病教室

## ■ 統計 ■

- ・ 患者食提供数（1日当たりの平均提供数）
  - 一般食 186食
  - 特別食 264食
  - 合計 450食
- ・ 栄養指導件数
  - 入院1,130件／年、外来1,616件／年、合計2,746件／年
  - 栄養サポートチーム加算件数 655件／年
  - 早期栄養介入管理加算件数 317件／年

# ■ 理学診療部 ■

## ■ 人員構成 ■

医師	1名（統括診療部長兼務）
理学療法士	8名
作業療法士	1名
補助員	1名

## 認定資格

実習指導者研修修了	6名
介護支援専門員	2名
3学会合同呼吸療法認定士	3名
介護予防推進リーダー	2名
地域包括ケア推進リーダー	2名
フレイル対策推進マネージャー	1名
心臓リハビリテーション指導士	1名
腎臓リハビリテーション指導士	6名
肝疾患コーディネーター	5名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

リハビリテーションとは身体的・機能的な障害を持つ方を対象とし、日常生活の中で個々の能力の向上を図っていただけるよう働きかけ、社会復帰を支援するものである。

外来及び入院患者のリハビリテーションを行っており、主に急性期・生活期リハの部分を担当している。

### 【施設基準】

運動器リハビリテーション・Ⅰ      呼吸器リハビリテーション・Ⅰ  
心大血管リハビリテーション・Ⅰ   脳血管疾患等リハビリテーション・Ⅱ  
廃用症候群リハビリテーション・Ⅱ   がんリハビリテーション（2019年2月～）  
地域包括ケア病棟リハビリテーション（2015年7月～）

対象疾患は整形外科（骨折、変形性関節疾患術後等）、脳血管（脳梗塞、脳出血等）、内科（糖尿病、肺炎、ASO等）廃用障害、心大血管リハ、がん疾患等多岐に渡る。

具体的な内容として、ポジショニング、呼吸訓練、関節可動域訓練、筋力増強訓練、座位・立位バランス、起立・歩行訓練、上肢巧緻動作訓練、ADL（日常生活動作活動）訓練がある。他部門と連携・情報共有をおこない退院支援へ協力している。

また外来での心臓リハビリテーションにも力を入れている。

■ 統計 ■

リハビリテーション実施状況 (2024.4 ~ 2025.3)

	外来	入院	計
運動器疾患 (単位)	330	6812	7142
(延べ人数)	330	4567	4897
脳血管疾患等 (単位)		2954	2954
(延べ人数)		1568	1568
廃用症候群 (単位)		6980	6980
(延べ人数)		5161	5161
呼吸器 (単位)		2752	2752
(延べ人数)		2085	2085
心大血管等 (単位)	863	1812	2675
(延べ人数)	288	1242	1530
がん (単位)		816	816
(延べ人数)		711	711
地域包括 (単位)		12574	12574
(延べ人数)		5390	5390
合計 (単位)	1193	34700	35893
(延べ人数)	618	20724	21342

入院患者 年齢別退院先転帰及び人数 (2024.4 ~ 2025.3)

	【70歳未満】					【70歳以上】					総計
	自宅	転院	老健	その他	合計	自宅	転院	老健	その他	合計	
運動器	88	3	0	11	102	195	26	29	49	299	401
脳血管等	10	6	0	1	17	21	12	7	24	64	81
廃用症候群	33	2	3	24	62	217	12	43	117	389	451
呼吸器	7	1	0	2	10	95	4	15	44	158	168
心大血管	29	0	0	3	32	85	3	7	12	107	139
がん	15	0	0	2	17	29	1	2	24	56	73
地域包括直接入院	5	1	0	2	8	6	1	6	1	14	22
計	187	13	3	45	248	648	59	109	271	1087	1335

# ■ 臨床工学室 ■

## ■ 人員構成 ■

臨床工学技士 5名

### 認定資格等

3学会合同呼吸療法認定士 2名、透析技術認定士 2名、  
認定集中治療臨床工学技士 2名

日本救急医学会：ICLSインストラクター 1名、BDLS プロバイダー1名  
心電図検定2級 2名、心電図検定3級 1名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### ①血液浄化業務

透析センターにおいて2～3名体制で月間約900件の血液浄化業務を行っている。  
また、急性血液浄化にはオンコールにて24時間体制で対応している。

### ②アンギオ室業務

心臓カテーテル治療ではポリグラフ・IVUS・IABP・テンポラリペースメーカなどの  
操作を行うとともに、多職種と連携し より安全な医療を提供できるよう努力している。  
また、ロータブレーターやDCAなどの特殊な機器への対応している。

### ③心臓ペースメーカ業務

専門外来では、火・水曜日に約160件のペースメーカ管理を行っている。

### ④生命維持管理装置のラウンド

人工呼吸器などの生命維持管理装置をラウンドすることで、安全使用の確認やフィジカル  
アセスメントを行い多職種とコミュニケーションをとり対応している。  
ネーザルハイフロー療法は、年々増加し今年度は15件となった。

### ⑤ME機器管理

機器の日常点検や定期点検をPC管理で行い生命維持管理装置の安全使用に努めている。  
また、機器の内部記録の解析することによりインシデント分析に協力している。

### ⑥その他

ME機器使用者研修は部署単位で行い、より多く参加できるよう開催することで機器の  
正しい操作を理解できるよう努力している。

## ■ 統計 ■ (2024年度)

ペースメーカチェック (外来、植込み時など)	159件
人工呼吸器管理 (挿管、非挿管)	69件
ネーザルハイフロー	15件
特殊血液浄化 (CHDF, ET吸着, CARTなど)	53件
補助循環装置 (PCPS/IABP)	4件

## ■ 医療福祉相談室 ■

### ■ 人員構成 ■

主任医療社会事業専門員 1名  
医療社会事業専門員 2名

### ■ 業務内容・概要・特徴 ■

通院や入院中の患者・家族、これから病院に受診しようとしている方の中には、治療の妨げになる生活上の不安、心配などの問題を抱えている場合がある。医療福祉相談室では、患者・家族が安心して治療に専念できるよう、こうした問題解決・調整援助を行なっている。近年、社会保障政策の変化と高齢化により、問題を抱えている方が多く、その問題も重度重複化している。問題解決には地域の関連機関との連携は欠かせない為、個別援助のみならず、関連機関との協働・連携も重要な業務である。

#### 【相談援助業務】

- ①療養中の心理的・社会的問題解決、調整援助
- ②退院援助
- ③社会復帰援助
- ④受診・受療援助
- ⑤精神科受診、入院援助
- ⑥経済的問題の解決、調整援助
- ⑦地域活動

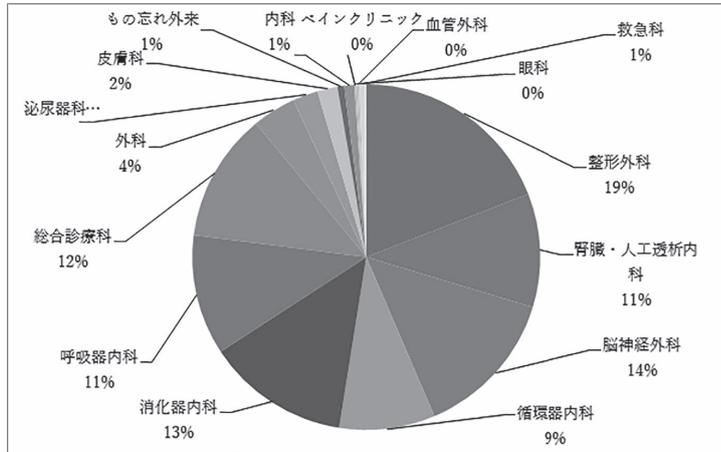
#### 【院内活動】

各病棟カンファレンス（月曜日：地域包括ケア病棟 火曜日：3B病棟  
水曜日：2B病棟 木曜日：3C病棟 金曜日：4C病棟）

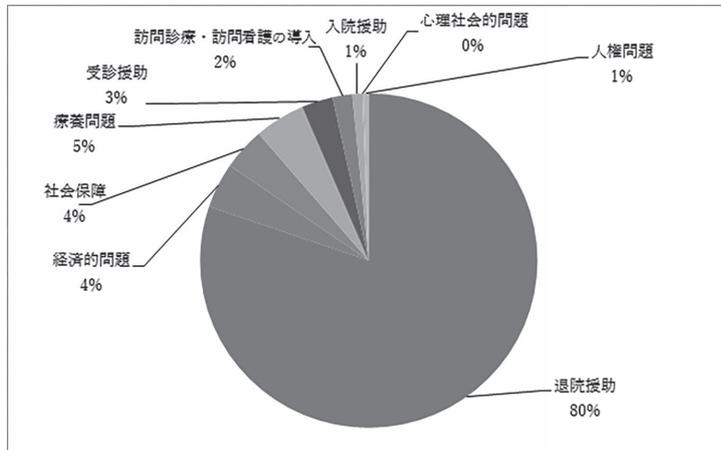
## ■ 統計 ■

相談ケース数 887件

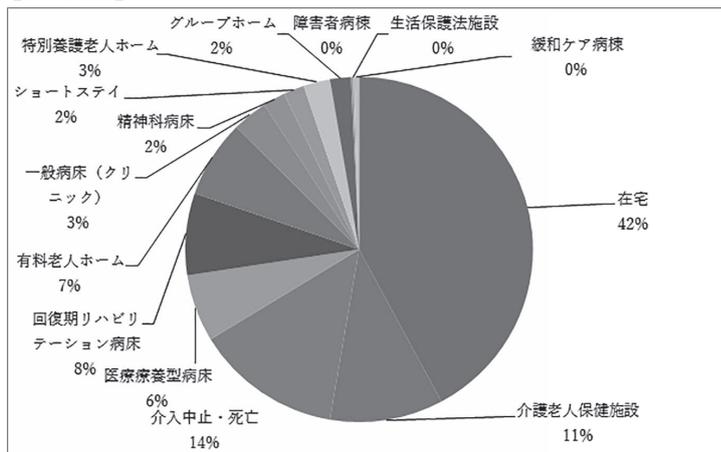
### 【診療科別】



### 【援助内容】



### 【転帰先】



## ■ その他 ■

- ・ 横浜市在宅療養移行支援検討会 委員

# ■ 臨床心理室 ■

## ■ 人員構成 ■

臨床心理士 1名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### ①臨床心理査定

物忘れ外来では、神経心理学的検査を用いて主に認知機能検査を担当している。また、家族の面接を行い、本人、家族の抱える問題や介護困難感への支援や認知症患者の症状、対応についての心理教育を行っている。他科外来、入院患者の認知・心理面への査定依頼に対して心理検査、行動観察、面接等を行い、問題や対応について明らかにし、臨床心理学的側面から望ましい援助の方法を伝えている。

### ②臨床心理面接

担当医の依頼から、介入の必要性を精査し心理面接を行っている。相談者の抱える問題に応じて様々な心理療法を用いて問題解決、困難の克服への援助を行っている。

### ③コンサルテーション

臨床心理学的視点から、環境調整や関わりへの配慮が必要な方に対して、病棟スタッフとのカンファレンスを通して、情報共有や問題の理解や対応の提案を行っている。

### ④職員対象のメンタルヘルスケア

産業医、管理者や所属長からの依頼、本人からの相談に応じて、対象職員への心理的サポートや心理面接を実施している。また、安全衛生委員会で、職場でのメンタルヘルスケアの啓発や組織作りの取り組みを行っている。

### ⑤緩和ケアチーム回診

主治医より依頼のあった患者様に対し、毎週1回定期的にチームで介入している。また、日々患者様の様子を観察し、心理的側面の介入が必要な方に対して、心理面接・査定を行い、闘病生活におけるメンタル面での支えとしての働きを行っている。自宅闘病となった患者様の外来受診時に同席し、メンタル面の評価や対応について助言を行っている。

## ■ 統計 ■ (件数等)

物忘れ外来 R6年度統計

項目	件数
物忘れ外来総患者数：	224名
患者内訳：	
新規患者数	50名
再診患者数	174名

### 物忘れ外来 心理検査実施数

項 目		件 数
物忘れ外来年間心理検査数：		489件
検査内訳：	HDS-R/MMSE	50件
	ADAS-jcog	174件
	CDR	50件
	IADL	215件

### ■ その他 ■

- ・安全衛生委員会、緩和ケア委員会に参加。
- ・9月時点で医師不在により、もの忘れ外来休診。

# 看護部

# ■ 看護部 ■

## ■ 人員構成 ■

看護部長 茂木 真由美  
副看護部長 鈴木 論子  
                  高山 裕子  
看護師長 11名  
副看護師長 19名

	常 勤	非常勤	派 遣
看 護 師	177名	15名	2名
保 健 師	2名		
准 看 護 師	1名	1名	
療養介助員	4名	7名	12名

## ■ 看護部理念 ■

互いの“心に寄り添う看護”を提供します

## ■ 2024年度看護部目標と取り組み ■

### 1. 一人ひとりを尊重した質の高い看護の提供

全看護師がキャリア自律を目指し、自己研鑽に努めた。院外研修の参加者60名、学会参加者21名、学会発表者13名であった。また、キャリアラダーの新規認定者はⅠ：10名、Ⅱ：7名、Ⅲ：3名、Ⅳ：2名だった。

### 2. 地域医療機能病院としての役割発揮

前方支援および後方支援の充実を図るために取り組んだ。特に、前方支援については療養支援科看護師責任による開業医からの受け入れを積極的に行った。引き続き住み慣れた町で、健康で豊かな生活を送ることができる支援を考えていきたい。

### 3. 業務改善の推進による健全経営への貢献

適切なベッドコントロールおよび、必要度上の重症者割合を維持する等の取り組みを行ったが、必要度上の重症度患者の割合を維持するのは難しかった。

また、他職種とのタスク・シフト／シェアとして看護師の特定行為実践に取り組んだ。PICC挿入10件、直接動脈穿刺法13件等の実践ができた。次年度も上記取り組みを継続していく。

### 4. 健康で安全に働くことができ、ワーク・エンゲージメントを高めることができる職場の創出

個人のワークライフバランスを大切にしたいキャリアをデザインできるよう、外部講師を招いて研修を行った。また、社会の変化に合わせ、臨機応変な病床運営を行った。

人員獲得も含め、誰もが居心地のよい職場となるための対策を次年度も検討する。

### 5. 病院機能評価に全員で取り組むことができる

マニュアル整備、環境ラウンド、記録監査、症例トレース練習等、機能評価受審に向けて取り組むことができた。

## ■ 看護部の活動 ■

### < 認定看護管理者・認定看護師・特定行為研修修了者数 >

認定看護管理者	2名
感染管理認定看護師	2名
皮膚・排泄ケア認定看護師	2名
糖尿病看護認定看護師	1名
がん化学療法認定看護師	1名
手術看護認定看護師	1名
がん看護専門看護師	1名
特定行為研修修了者	7名

外来ミニ講座 12回

健康フェスタ 10月10日実施（男性39名、女性8名参加）：横浜市寿町健康福祉交流センター

一日看護体験（高校生） 5日間開催（19名参加）

インターンシップ 3日間

## ■ 2B 病棟 ■

### ■ 人員構成 ■

看護師長 唐澤香織  
副看護師長 細谷順子  
副看護師長 難波ひとみ  
看護師 20名  
療養介助員 3名

### ■ 業務内容・概要 ■

- ・循環器内科：心臓カテーテル検査 月・木曜日（診断及び治療）
- ・心不全チームによる活動
- ・脳神経外科：脳出血・脳梗塞などの緊急入院対応 麻痺や言語障害症例に対する日常生活支援
- ・血管外科：下肢静脈瘤や閉塞性動脈硬化症に対する術前・術後看護

### ■ 特徴 ■

術前後の周手術期を含めた急性期看護、慢性・回復期に移行後のリハビリテーション看護、家族を含めた退院・生活指導など、対象者の状態に即した看護展開を行っている。

HCUと連携し急性期～慢性・回復期への継続看護や、多職種カンファレンスを活用した退院支援について目標を掲げ取り組んでいる。また安全管理として、転倒転落予防などについてのアセスメントや対策検討を目的とし、病棟内安全ラウンドを実施している。

院内急変時は速やかに駆けつけ、救命活動に参加できる知識・技術を身につけるため部署として取り組んでいる。

### ■ 統計 ■

許可病床：40床 病床利用率：77.8% 平均在院日数：19.2日

業務内容：日常生活援助、検査・手術前後の看護、リハビリテーション、摂食嚥下訓練

### ■ その他 ■

院内の多職種や地域の関係各所と連携し、高い自宅退院率を維持している。平均在院日数は昨年度と比較して増減はない。

高齢独居患者が増加していることから、再入院率も高く、早期の受診行動が取れない患者も多いため、心不全等院内チームだけでなく、外来、訪問看護や地域と連携しながら患者サポート体制の充実に向けて活動中である。

## ■ 人員構成 ■

看護師長 唐澤香織  
副看護師長 山口早紀  
看護師 11名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### 主診療科と看護

---

- ・全診療科における、生命の危機状況にある超急性期看護
- ・循環器内科・脳神経外科領域における急性期看護
- ・周手術期におけるハイリスク患者の術後看護

### 特徴

---

積極的に各診療科領域での学習会を企画して知識・技術の習得を行い、安全な急性期看護が行えるよう努めている。身体的に侵襲が大きく抵抗力が弱化する状態であることや、内腔に留置されるカテーテルやドレーン類の管理も多いことから、感染管理にも重点をおいた実践を心掛けている。

また、回復期移行に向けて他病棟と連携強化を図っている。特に様々な専門領域の経験を有する看護スタッフが多く、退室時の申し送りによる看護指導や、学習会の主催などにより情報共有、継続看護に繋げることができている。

院内急変時は速やかに駆けつけ、救命活動に参加できる知識・技術を身につけるため部署として取り組んでいる。

## ■ 統計 ■

許可病床 6床 病床利用率 74.8% 平均在院日数 4.5日

業務内容 急性期看護・日常生活援助・術前後看護・摂食嚥下訓練・ベッドサイドリハビリテーション

## ■ その他 ■

一般急性期病棟と連携し、いつでも救急診療が必要な患者対応が出来るように、常時受け入れ可能なベッドコントロールを心掛けている。

当病棟から直接退院となる症例は殆どみられないが、救急で入院となる患者が多く、入院時に情報不足であることも多い。迅速な情報収集と全体像の把握に努め、退院困難となるような背景要因があれば早期に介入できるよう、多職種連携を行っている。

## ■ 3B 病棟 ■

### ■ 人員構成 ■

看護師長	1名
副看護師長	2名
看護師	21名
療養介助員	0名
非常勤療養介助員	3名
特定行為研修修了者	2名

### ■ 部署紹介 ■

整形外科・眼科・歯科口腔外科（小児）の混合病棟です。外傷により、手術を受ける急性期患者と手術後リハビリを受ける回復期の患者、他に白内障の患者、抜歯術を受ける患者が入院されています。

3B病棟は急性期から回復期まで多職種による連携を大切にし、患者・家族が望む場所へ安心して早期に退院できるよう支援に努めています。

### ■ 業務内容・学会発表・実績 ■

目許可病床	52床
ベッド利用率	70.0%
在院日数	17.4日
科別手術件数	整形外科：363件
	眼 科：49件

### ■ 地域医療貢献への取り組み ■

高齢化が進む中、地域に根差し、患者・家族の方々が安心して自宅へ戻られるよう、退院後の生活を見据えた支援に努めています。地域包括ケア病棟と連携を図りながらリハビリ部門との協働を軸として、多職種連携を行っています。また、地域の方々へ骨折や肺炎予防に繋がる看護が提供できることを目指しています。

## ■ 3C 病棟 ■

### ■ 人員構成 ■

看護師長	松崎	芳香
副看護師長	佐伯	郁子 (皮膚・排泄ケア認定看護師)、井上 舞子、三澤 直之
看護師		17名
療養介助員		1名
非常勤療養介助員		2名

### ■ 業務内容・概要・特徴 ■

当病棟は、消化器系疾患、乳腺疾患、泌尿器疾患の癌患者が約8割を占め、癌の診断から、治療期、終末期の患者の看護実践を行っています。約100名/月の新規入院を受け入れ、短期検査治療入院から周手術期治療、終末期治療と治療・看護は多岐に渡っており、外来、手術室、HCU、地域包括ケア病棟、療養支援科と連携を図り、様々な治療を受ける患者の円滑な入退院に対応できるように病床管理を行っています。また、早期胃癌・早期大腸癌に対する内視鏡的治療の件数は年々増加しており、安全・安心な治療により合併症の出現がなく早期に社会復帰できるように内視鏡室との連携を強化しています。進行大腸癌や乳癌患者に対しては、スムーズに外来化学療法への移行ができるように、がん化学療法認定看護師を中心に治療に関する意思決定支援及び、日常生活への不安に対処できるように支援しています。また、ストーマ造設など在宅でのセルフケアを必要とする患者にはセルフケアができるように支援を行い、在宅での生活に対する不安を最小限に出来るように関わっています。終末期がん患者に対しては、緩和ケアチームと協力し、がん性疼痛のコントロールを積極的に行い、痛みで障害されている日常生活の改善を行い安寧な状態を維持できるよう医療・看護を提供しています。

また、入院時からスクリーニングシートを活用し、長期に入院が予測される患者様には、多職種カンファレンス等を通じて、患者様・ご家族の希望に沿った退院への介入を行っています。

### ■ 業績目録 (学会発表、講演、論文等) ■

令和6年度	許可病床数	51床 (4月～6月：30床、7～8月：33床、9月～40床で運用)
	病床利用率	65.7% (51床)
	平均在院日数	11.8日
看護研究		・ストーマ保有者へパンフレットを用いた退院指導の統一化

# ■ 地域包括ケア病棟 ■

## ■ 人員構成 ■

師 長	程川 郁子	1名
副 師 長	渡邊 由香梨	3名
	磯部 元成	
	成田 菊恵	
看 護 師		14名
非常勤看護師		3名
非常勤看護師准看護師		1名
療養介助員		3名
非常勤療養介助員		7名

## ■ 部署紹介 ■

### 診療科

#### 全科

診療部長：総合診療科部長：1名  
総合診療科医：3名  
専従理学療法士：1名

地域包括ケア病棟に入院対象となる患者は、在宅復帰を目標に一定期間（入院期間60日を限度）の療養とリハビリが必要とされる方々で、患者様とご家族がより良い生活が送れるように医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど多職種が協力してサポートしています。また、生活期リハビリを行いながら療養病院や老人保健施設などへの転院調整を行っています。看護師は、転入（入院）から退院まで担当看護師として責任を持って、患者家族の意思決定を支え、望む場所での療養生活に移行できるよう退院支援の充実に努めています。

### 入院対象

- ・急性期治療を終え病態が安定し在宅への退院や転院のために生活の中でリハビリを行い、退院調整が必要であったり、転院調整が必要な患者
- ・在宅や療養先で軽度の治療が必要になった患者、短期検査、短期滞在手術などの入院
- ・経過観察目的での緊急入院
- ・在宅後方支援、介護者の負担軽減の為のレスパイト入院

### 施設基準

在宅復帰率；72.5%以上

重症度、医療・看護必要度 A項目1点以上、C項目1点以上のいずれかを満たす患者が8%以上  
看護配置；13：1以上

リハビリテーションを提供する患者は1日平均2単位以上（休日含む）

地域包括ケア病棟入院料は60日まで算定可

## ■ 業務内容・学会発表・実績 ■

### 《令和6年度実績》

---

延べ入院患者数；16,262人

平均年齢；74.1歳

病床数；50床

病床利用率；89.1%

平均在院日数；21.8日

在宅復帰率；81.5%

重症度、医療・看護、必要度；16.9%

リハビリテーション1日平均；2.1単位

## ■ 地域医療貢献への取り組み ■

### 《在宅介護の後方支援》

---

- ・ 地域の開業医や地域包括ケアセンター、ケアマネージャーなど院内外多職種との連携、および他院と療養支援科が連携を図り、転院受け入れ、レスパイト入院の受け入れを行っている
- ・ 患者の諸問題を解決しながら担当看護師として在宅復帰へ向けた退院支援を強化
- ・ 退院前後訪問を実施し、退院後の生活をどのように送っているか、入院中どのような支援が必要であったかを知り、退院支援を強化

## ■ 4C 病棟 ■

### ■ 人員構成 ■

看護師長	岡田 真理	1名
副看護師長	牧野 幸	
	鈴木 理恵子	2名
看護師		19名
非常勤看護師		0名
療養介助員		3名
非常勤療養介助員		0名

\* 令和7年6月現在

### ■ 部署紹介 ■

呼吸器内科、腎臓内科、総合診療科、の混合病棟です。呼吸器科は肺がんの診断、化学療法、肺炎、SAS（睡眠時無呼吸症候群）の診断、腎臓内科では、慢性腎不全から、人工透析目的や糖尿病による血糖コントロール目的、総合診療科は主に肺炎や尿路感染、心不全などの患者様が入院されています。医療依存度の高い状況での退院も多く、褥瘡処置、中心静脈栄養や人工呼吸器など装着している患者・家族への指導を行い、ご家族が安心して在宅での介護が行えるよう在宅療養支援科の看護師と協働しながら支援をしています。また、終末期やご高齢の患者様が一日でも長く住み慣れた自宅での大切な時間を過ごせるように、ケースワーカーや地域のケアマネージャーと連携を取りながら支援しています。コロナ病床の経験を活かし、感染対策においても専門的な知識・技術向上へ取り組んでいます。看護部の理念にもある「お互いの心によりそう看護」を目標に日々実践していきます。

### ■ 業務内容・学会発表・実績 ■

一般病床数：42床      平均在院日数：19.3日

### ■ 地域医療貢献への取り組み ■

入院時に、ケアマネージャーや地域の看護師からそれまでの生活状況について情報を聞き、個別性のある看護に繋がれるようにしています。

患者や家族が希望される、入院前に生活していた自宅や施設へ戻れるように、医師・看護師・MSW・ケアマネージャー参加のもとカンファレンスを行い、患者の入院前、入院中の病状やADLの変化を共有しながら在宅調整を行っています。継続した治療・看護が提供され、患者・家族が安心して自宅で過ごせるように地域の医師や訪問看護スタッフ、訪問ヘルパーを交えた退院前カンファレンスも積極的に行っています。

## ■ 看護部外来 ■

### ■ 人員構成 ■

看護師長：佐藤 かずみ  
副看護師長：鈴木 沙央莉 白戸 美穂  
看護師 12名  
非常勤看護師 11名  
非常勤療養介助員 1名

### ■ 業務内容・概要・特徴 ■

各診療科と放射線科、内視鏡センター、化学療法室、救急外来で構成されています。地域の特色として外国の患者様も多いため、中国語、英語の通訳が常駐し連携を取りながら患者様が安心して受診できるよう対応しています。

救急医療として、24時間オンコール体制で心臓カテーテル検査、緊急内視鏡を行い、対応しています。また「フットケア外来」や「糖尿病透析予防外来」「心不全チーム」「肝疾患チーム」などチーム医療を行いながら、継続的な治療や重症化予防に向けた治療につなげています。患者様が住み慣れた地域で安心して過ごせるように地域包括ケアの要として、地域ケアサービスセンター・療養支援科と連携を図り、開業医や施設からの紹介患者の受け入れ、行政機関や地域の訪問看護ステーション、ケアマネージャーとの連携も積極的に行っています。また、外来通院患者様や地域住民の方を対象としたミニ講座を定期的で開催し、保健意識向上や未病改善のための活動にも取り組んでおります。

看護スタッフは、子育て世代からベテランまで幅広く、お互いのスキルを発揮し合いながら、「心によりそう看護」を目標に日々業務を行っております。

### ■ 統計 ■

外来平均一日患者数：404.2人  
月平均患者数：8185名／月（新患 817.33人／月、再来 7367.17人／月）  
診療単価平均：12,342円  
救急搬送件数：4477件／年（時間外：2856件）  
内視鏡検査総数：5526件／年（EGD 3637件、CF 725件、EUS 379件、ERCP 403件等）

### ■ 令和7年度ミニ講座実施状況 ■

4月	中止	10月	内容未定
5月	骨盤底筋体操	11月	低栄養について
6月	家でできる筋力トレーニング	12月	実施予定（演目未定）
7月	がん予防	1月	実施予定（演目未定）
8月	腸活始めてみませんか	2月	実施予定（演目未定）
9月	病院で支援できること（仮）	3月	薬の飲み合わせ

# ■ 腎臓病センター ■

## ■ 人員構成 ■

看護師長：山中聖子

副看護師長：細谷順子

看護師：6名

非常勤療養介助員：1名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

透析患者は、年々増加傾向にあり、患者背景の多様化・複雑化が進んでいる。社会情勢を踏まえ、当腎臓病センターでは身体・精神的及び社会的な側面から透析治療を受けながら生活している患者を中心とした総合的な支援を目指し活動している。新型コロナウイルス感染症は5類感染症となるが陽性者も多く、透析患者の高齢化および糖尿病や高血圧症など合併症を有する患者も多いことから、重症化するリスクが高い。患者、スタッフの手指衛生、サーベイランスを徹底し感染予防に努めるとともに、コロナ陽性患者の受け入れ体制を整え、安全に透析を実施した。

また、専門知識の修得にも努め、チーム医療の充実を図るため医師・臨床工学技士・栄養士・病棟看護師と連携し、カンファレンスにおいて他職種間での情報共有および看護を実践している。

### <透析室概要>

透析スケジュール	2部制（月・水・金）（火・木・土）
ベッド数	25床

## ■ 統計 2024年度実績 ■

総延べ患者数	9,818名
通院延べ患者数	7,997名
入院延べ患者数	1,821名
導入患者数	16名
腹膜透析維持	0名

転入患者数	76名
転出患者数	77名
平均透析患者数	31.2名/日
平均ベッド稼働率	62.7%

## ■ 地域医療貢献への取り組み ■

当腎臓病センターでは、透析患者の高齢化や合併症の増加による重症化に伴い、地域連携からの依頼による治療や検査、レスパイトが必要な患者を、院内外の担当者と連携し、スムーズに受け入れる体制を整えている。また、外来維持透析患者の生活調整や体重コントロールの介入を体調悪化前に早期に判断し、重症化を軽減するよう努めている。

# ■ 手術室・中央材料室 ■

## ■ 人員構成 ■

看護師長	入澤 綾子（手術看護認定看護師）
副看護師長	西田 美音利
看護師	周術期管理チーム看護師 1名 10名（4月1日付で新人看護師1名配属）
準夜勤補助者	1名（16時から22時 ※時間外手術がある場合）
中央材料室	鴻池メディカル（委託） 4名（1名育児時間取得）
清掃担当（委託）	1名

## ■ 業務内容・概要 ■

- ・ 予定および緊急手術の対応・各使用器械の点検・洗浄・滅菌（緊急対応）
- ・ 手術における看護体制；2名（器械出し看護・外回り看護）  
ハイリスク症例では外回り看護師2名対応
- ・ 夜間・休日の勤務体制；オンコール2名体制
- ・ 周手術期看護；術前訪問・術後訪問・術前指導外来の実施
- ・ 新人指導；実地指導者、教育担当者を中心に手術看護に必要な知識及び技術の習得
- ・ 新人ローテーション研修受け入れ；5日間で、気管挿管介助・胸骨圧迫法・中材  
研修・器械出し看護体験を実施
- ・ 学生指導；横浜実践看護専門学校、聖灯看護専門学校の学生を受け入れ、受け持ち患者の手術見学または手術室1日見学実習
- ・ 他部門での業務；平日9時から11時上部内視鏡検査部で診療補助  
土曜日 救急外来で遅出勤務  
手術室の状況で、救急外来または病棟への支援
- ・ 中央材料室；手術器械および借用器械の洗浄・滅菌・保管  
院内各部署の器械の洗浄・滅菌・管理

## ■ 資格更新 ■

- ・ 手術看護認定看護師 令和6年10月30日更新

手術室は5室を稼働、予定と臨時および緊急手術に24時間対応しています。主な診療科は、消化器外科・乳腺外科・整形外科・泌尿器科・脳外科・血管外科・歯科口腔外科・皮膚科・形成外科・眼科・ペインクリニック内科・消化器内科・腎臓内科の手術を受け入れています。令和4年度から開始した術前指導外来では、全身麻酔下で予定手術を受ける患者に対して入院前に面談し、禁煙や禁酒、口腔ケアや保湿の必要性を十分説明し、準備を行うことで、安全な麻酔や手術の提供と術後合併症の予防に努めています。

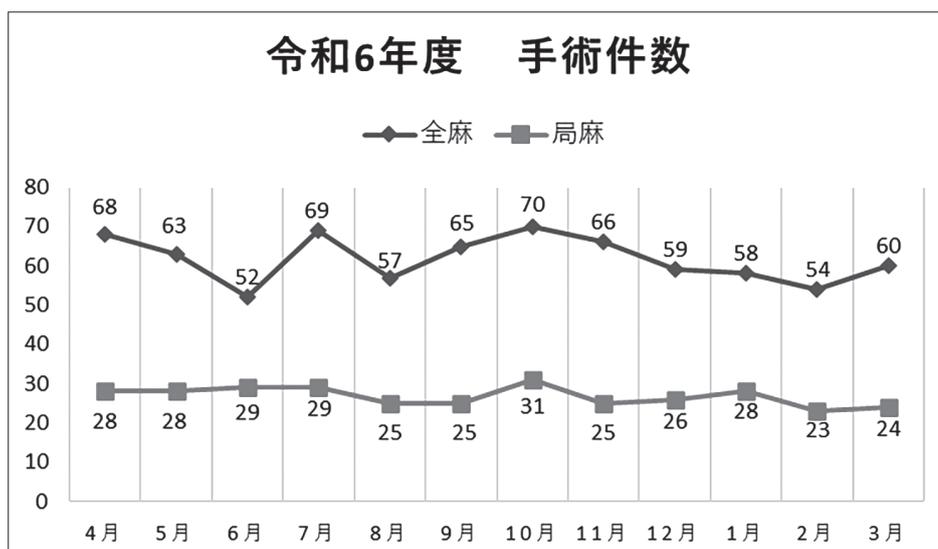
加えて術前訪問および術後訪問では、看護計画の立案および実施、評価をすることで、病棟看護師と共有し、術後看護へ繋げています。また、術後訪問で患者の術後の経過を知ることは、

自己の看護実践の振り返りの機会となります。手術室看護師は、周術期看護の中心を担い、継続看護に参画していると言えます。

新人看護師を毎年迎え、指導者が中心となって指導計画の立案を行い、部署全体で育てることで、器械出し看護師を中心に、救急外来や病棟での看護実践も担えるようになりました。

## ■ 統計 ■

令和6年度 手術総件数；1067件  
(内、臨時手術；194件、緊急手術；90件)  
全身麻酔；741件 局所麻酔；321件  
(内、全身麻酔導入後に手術中止症例1件)



# ■ 医療安全管理部 ■

## ■ 人員構成 ■

医療安全管理部長（責任者） 併任 三松 謙司  
医療安全管理者 看護師長 池田 朋恵

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

医療安全管理部は、インシデント・アクシデント要因の分析、再発防止対策、医療安全に関する職員への教育・研修の実施、医療安全に係わる委員会の運営、医療安全ラウンド、また医療事故発生に際し適切かつ迅速に対応できるように医療安全管理の推進と安全文化の醸成を目的とした活動を行っている。

1. 医療事故発生時事故調査委員会開催・対策検討
2. インシデント・アクシデント事例を毎月委員会等において報告
3. インシデント・アクシデント集計・有害事象事例（レベル3b以上）をJCHO東日本地区医療課へ毎月報告
4. インシデント集計を日本医療機能評価機構へ3ヶ月毎報告
5. 委員会活動

医療安全管理委員会・リスクマネージャー委員会・院内感染予防対策委員会・医療ガス安全管理委員会・特定行為研修管理委員会等

### 6. 医療安全研修会開催

#### 1) 第1回研修:学研eラーニング

テーマ:「心理的安全性と医療安全」「組織における心理的安全性低下のサイン」

開催: 令和6年7月 (未受講者研修: 令和6年2月) 受講率: 99.8%

#### 2) 第2回研修:学研eラーニング

テーマ:「インシデントレポートの書き方とコツ」

開催: 令和6年12月 (未受講者研修: 令和6年2月) 受講率: 99.3%

#### 3) 新入職員研修 テーマ:医療安全管理

開催: 令和6年4月1日

#### 4) 看護部ラダー教育 I 新入職者研修 テーマ:安全管理

開催: 令和6年4月4日

#### 5) 看護部ラダー教育 I

テーマ:薬剤管理 (誤薬誤認防止対策)

開催: 令和6年4月15日

#### 6) 看護部ラダー教育 I

テーマ:静脈注射

開催: 令和6年5月25日

#### 7) 中途採用看護職員研修 (随時)

### 7. 医療安全管理指針・マニュアル等の制定・改訂

#### 1) リスクマネージャー委員会発足 (看護部から多職種メンバーに構成変更)

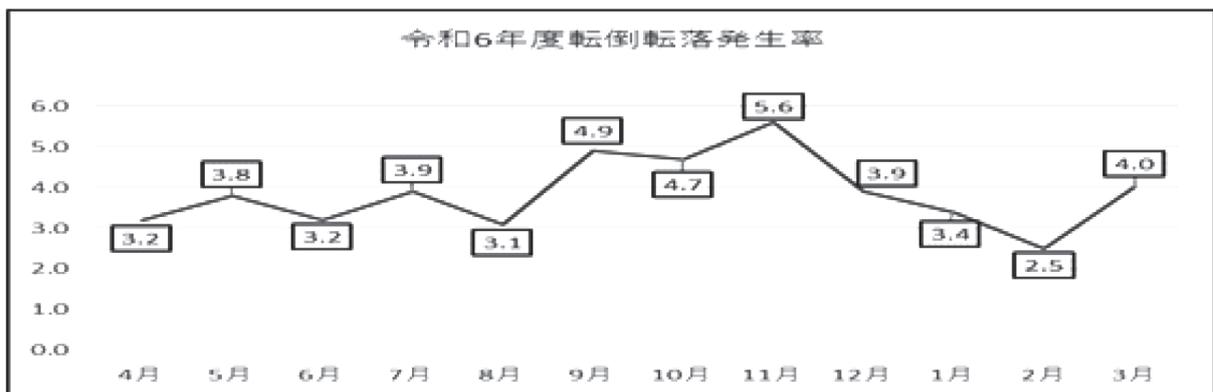
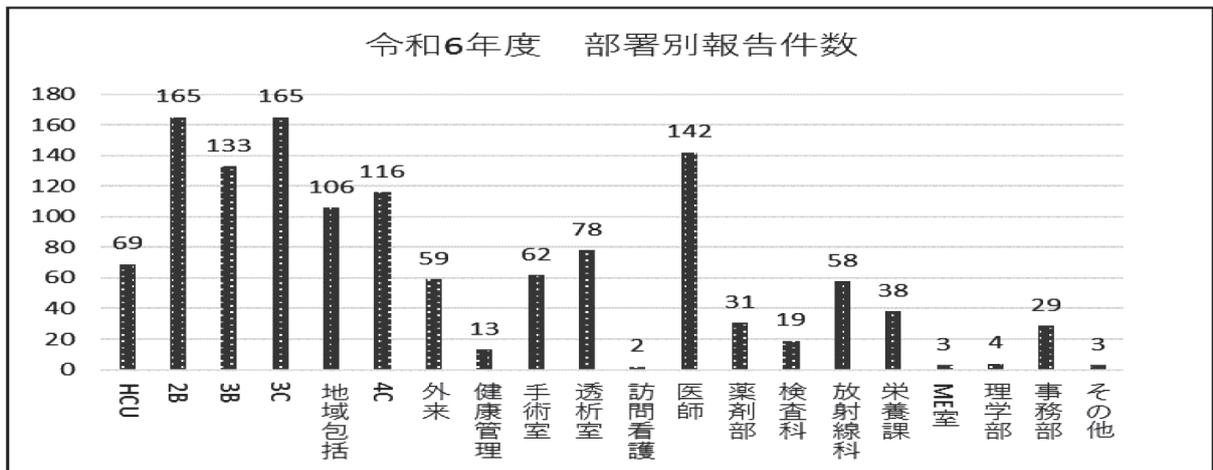
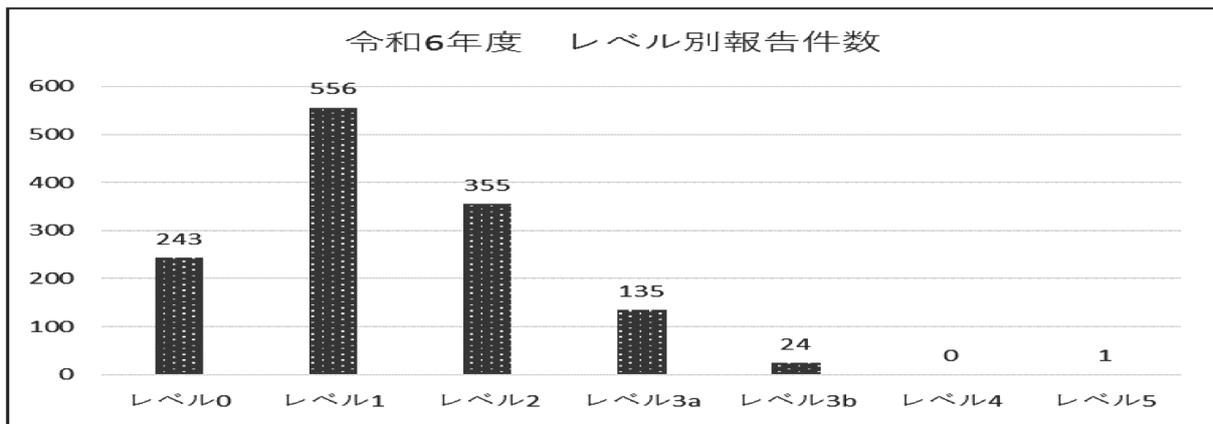
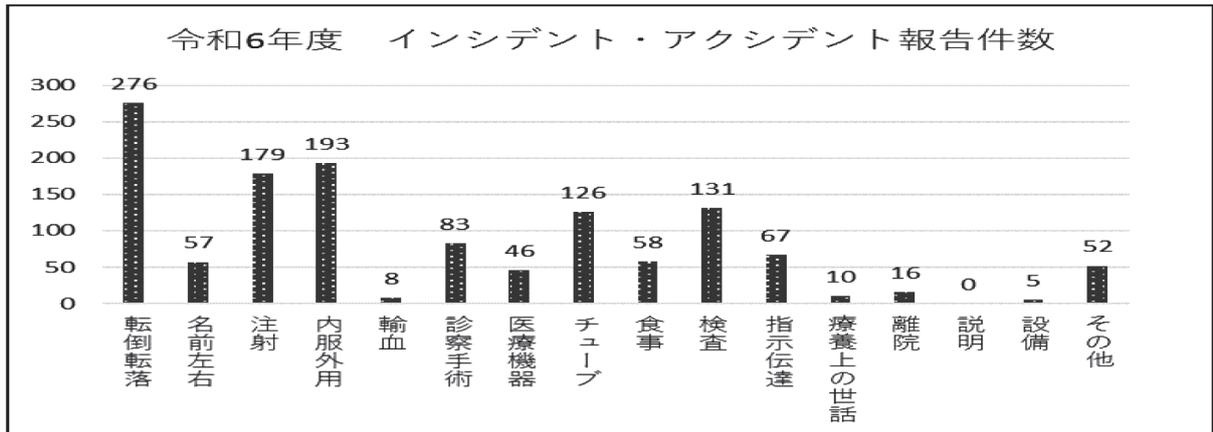
リスクマネージャー委員会規則 一部改訂

#### 2) 説明と同意に関する指針

#### 3) 口頭指示受けマニュアル 一部改訂

#### 4) 生命を脅かす疾患に直面した際の医療処置に関する意思確認書

- 5) 高難度・新規医療技術導入マニュアル
- 6) パニック値対応マニュアル
- 7) 休日・夜間管理体制における警察からの紹介への対応マニュアル
- 8) 内部通報制度
- 9) 院内食中毒マニュアル 一部改訂
8. 医療安全対策広報  
当該施設事例対策、JCHO 機関病院の事例対策、他施設の事故報道等を周知  
リスクマネージャー委員会転倒転落予防啓蒙ポスター
9. 医療安全ラウンド51回  
実施後改善点をフィードバックし委員会において報告  
ラウンド部署：看護部・薬剤科・放射線科・検査科・理学療法室・栄養管理室  
医事課・臨床工学室  
ラウンド項目：薬剤確認・患者確認・環境・セキュリティー等安全に関する項目
10. 令和6年度医療安全対策地域連携加算1  
一般財団法人神奈川県警友会けいゆう病院 評価日：令和7年3月21日  
JCHO横浜中央病院 評価日：令和7年3月18日
12. 令和6年度医療安全対策地域連携加算2  
JCHO湯河原病院 評価日：令和7年3月11日
13. 患者相談窓口カンファレンス事例検討：毎週水曜日
14. 医療安全管理部門カンファレンス：毎週水曜日
15. 医療安全管理対策
  - 1) 2階検査室前トイレに緊急ブザー設置
  - 2) CVC挿入時記録統一化のためテンプレートの作成



# ■ 感染管理室 ■

## ■ 人員構成 ■

感染管理認定看護師（専従） 1名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### 【概要】

1. ICTメンバー：感染委員長・内科医師・臨床検査技師・薬剤師、CNIC2名
  - ・毎週金曜日、院内要監視菌検出状況・感染症情報・抗菌薬使用状況を踏まえたミーティング及び院内ラウンドを実施し、院内感染防止対策の評価・環境の整備・感染対策への提案を行い、感染防止対策向上を図っている。
2. 感染防止対策加算及び地域連携加算1を取得
  - ・連携病院との相互ラウンド、合同カンファレンスを開催し相互の感染対策を深める為の活動を実施。
  - ・地域との積極的な交流を行い、院内だけに留まらず地域を巻き込んだ感染対策を実施している。
3. 抗菌薬適正使用支援加算を取得
  - ・ASTメンバー：ICTメンバーと兼任
  - ・ICTミーティング後の症例検討のほか、細菌検査室、感染管理室との情報共有を行い、抗菌薬使用や看護ケアへのタイムリーな介入を目指している。

### 【業務内容】

1. ICT活動
  - 1) 感染防止対策地域連携加算
    - ①感染防止対策地域連携加算1：一般財団法人 神奈川県警友会 けいゆう病院  
書面審査・相互ラウンドによる感染対策重点項目（154項目）の評価  
新型コロナウイルス感染症対策相互評価
    - ②感染防止対策地域連携加算2：JCHO湯河原病院 医療法人恵仁会 松島病院  
各施設：薬剤耐性菌検出状況 院内感染対策実施状況 抗菌薬使用状況  
新型コロナウイルス感染症対策でのコンサルテーション
    - ③外来向上加算：寿共同診療所 武安医院
  - 2) 感染マニュアルの見直し
  - 3) 院内ラウンドによる感染対策実施状況評価
    - ①ICTターゲットラウンド：1回/週  
現場指導に加え、改善依頼用紙を部署へフィードバック
    - ②AST抗菌薬ラウンド：1回/週  
使用状況及び療養環境をラウンドし、部署へフィードバック
    - ③看護部感染委員会ラウンド：自部署 看護ケア遵守状況

## 2. 病院におけるサーベイランス活動

- 1) 厚生労働省サーベイランス (JANIS) への参加：院内感染監視菌
- 2) CLA-BSIサーベイランス・延べ1000日当たりの感染リスク判定：5病棟
- 3) SSIサーベイランス：大腸手術、人工骨頭置換術
- 4) 手指衛生サーベイランス
  - ①擦式手指消毒薬の使用調査（令和6年4月～令和7年3月）
  - ②入院患者1人当たりの使用量算出 ③手指衛生遵守率算出（看護部と協同）
  - ④手洗いラウンド・フィードバック
- 5) 針刺し・切創・粘膜創傷サーベイランス  
令和6年度 針刺し・切創・粘膜曝露数：18件  
内訳：粘膜曝露4件 噛傷2件 針刺し9件（医5件 看護師3件 委託業者1件）
- 6) 新型コロナウイルス・冬季流行感染症対策サーベイランス

## 3. 教育

- 1) 院内感染研修  
前期：e-ラーニング「感染対策の基本と標準予防策」  
「手指衛生と個人防護具着用の必要性」「ゾーニングの基本」  
後期：e-ラーニング「ノロウイルス感染症の感染対策」  
「インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染対策」  
研修受講率：98.5%/年間（前期99% 後期98%）
- 2) 抗菌薬適正使用研修  
感染対策連携共通プラットフォーム (J-SIPHE) について
- 3) 新入職者研修
- 4) 看護部研修：新人 中途採用職員 キャリアラダー I～V

## 4. 職業感染対策

- 1) 健康管理センターと連携しワクチンスケジュール立案
  - ①職員：インフルエンザワクチン HBs ワクチン
  - ②希望時：風疹・麻疹・流行性耳下腺炎・水痘
- 2) 結核対応
  - ①地域との連携：各区保健所 施設（令和6年度職員接触者検診数：0名）
  - ②空気予防策の徹底 ③接触者リストの作成

## 5. 新型コロナウイルス感染症・冬季流行性感染症対応

- ①院内環境対策 ②職員教育 ③職員の症状サーベイランス・マスク着用
- ④患者、家族への啓発活動 ⑤情報提供：横浜市感染情報揭示、ICTニュース発行
- ⑥院内マニュアル、ガイドの改訂・修正
- ⑦地域・行政連携：国 神奈川県 横浜市 中区 JCHO本部・地区事務所
- ⑧CNIC 院外支援活動 ⑨神奈川県認定医療機関連携：連絡会議 懇親会

# ■ JCHO 横浜中央病院附属訪問看護ステーション ■

## ■ 人員構成 ■

管理者・看護師長	大内 和子	1名
副看護師長	植野由美子	1名
看護師		2名
非常勤看護師		1名
療養介助員		1名

## ■ 部署紹介 ■

平成27年10月開設。緊急時対応ができる24時間対応体制ステーションとして、在宅での看取りにも対応しています。医師の指示のもと、ご自宅で療養を継続される方に当該ステーションスタッフが実際に自宅に伺い、安心した在宅生活を送っていただくために必要な医療処置や服薬管理、ケアの実施、リハビリテーション、介護方法の相談、助言などの看護支援をご家族や地域のサービス事業所とも連携しながら実施しています。また、積極的にACPにも取り組み、意思決定を支援していきたいと思っております。病院附属のステーションであることを強みに、緊急時の速やかな対応や入院病棟との連携も強化していきたいと考えています。今後、ますます在宅療養を希望される方は増えることが見込まれていることから、その需要に応えていける地域のステーションを目指していきます。

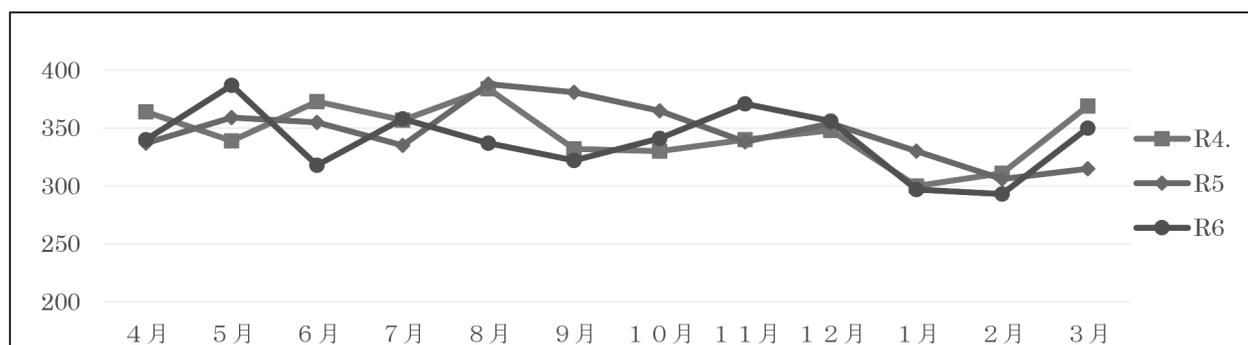
## ■ 業務内容・学会発表・実績 ■

訪問看護事業 サービス提供地域：横浜市中区・南区  
 事業所番号 1460490193  
 営業時間 平日（月～金） 9：00～17：00 土・日・祝日・年末年始 休み  
 登録利用者数（R6年 月平均） 医療保険 17名 介護保険 45名  
 指定種類

**介護保険：**訪問看護・居宅療養管理指導・介護予防訪問看護・介護予防居宅療養管理指導

**医療保険：**生活保護（医療扶助）：労災保険：精神科訪問看護基本療養費：障害者自立支援医療機関指定 特定疾患治療研究事業・小児慢性特定疾患治療研究事業・被爆者一般疾病医療機関指定

月訪問件数（年間約 4100 件、月平均 345 件）



## ■ 地域医療貢献への取り組み ■

- ・ 中区看護部会（かいごのWa）；地域の訪問看護ステーションとの会議や研修参加
- ・ 院内連携はもとより、往診医、地域のサービス事業所との連携を密にして、サービス提供を実施
- ・ 地域の開業医、往診医からの訪問看護指示書にて訪問看護を実施する割合の増加
- ・ 積極的に退院前カンファレンスやサービス担当者会議に出席し、院内外多職種との連携を強化

## ■ 療養支援科 ■

### ■ 人員構成 ■

看護師長 2名  
副看護師長 1名  
看護師 1名

### ■ 業務内容・概要・特徴 ■

#### 【前方支援】

- ・ 入院受け入れ窓口としての相談や調整、レスパイト入院の調整
- ・ 入院予約時のオリエンテーションとデータベース聴取、書類の作成
- ・ 緊急入院時の患者・家族との面接、情報収集、書類の作成
- ・ 緊急入院時のベッドコントロール
- ・ 救急外来の支援
- ・ 外来患者の受診相談（診療科の選定等）

#### 【後方支援】

- ・ 自宅退院される方の退院調整・支援をサポートし、入院時から退院を視野に入れた看護が展開でき、患者・家族が安心して退院できるよう支援している
- ・ 多職種合同カンファレンスへの参加、多職種との情報共有と協働
- ・ 退院前カンファレンスへの参加、退院前訪問、退院後訪問の実施
- ・ 入退院支援加算1、入院時支援加算のシステムの院内周知と実施

### ■ 統計 ■

入退院支援加算1：1,920件/年 入院時支援加算：200件/年  
介護支援等連携指導：122件/年 退院時共同指導：13件/年  
多機関共同指導：0件/年 退院前訪問指導：0件/年 退院後訪問指導：1件/年  
入院相談件数：343件/年（入院58%、キャンセル9%、お断り21%、相談のみ11%、保留0.6%）  
入院の内訳（200件）：治療43%（86件）、レスパイト28%（57件）、リハビリ15%（31件）、在宅調整12%（23件）、看取り2%（3件）

# 事務部

# ■ 総務企画課 ■

## ■ 人員構成（事務職員） ■

役 職 名	令和6年 4月1日現在
課 長	1名
課 長 補 佐	1名
総 務 係 長	1名
給 与 係 長	1名
職 員 係 長	1名
事 務 員	2名
非常勤事務員	1名
非常勤清掃員	3名
派遣事務員	1名
計	12名

## ■ 業務内容（概要・特徴） ■

総務企画課は、職員の皆さんが採用された際に、まず関わる部署です。ほかに結婚、出産、退職の際の手続きなど人事や雇用、毎月の給与、職員の健康管理に関することや研修医の諸手続き、施設管理に関わる業務などを行っています。

令和6年度は、全職種のユニフォームを新しく更新しました。また、コロナ以降滞っていた地震想定防災訓練を実施し、災害発生時の行動などについて確認しました。施設管理では、老朽化が激しく院内各所で不具合が起き、日々対応するのに苦慮しました。

### 【業務内容】

- ① 就業規則、給与規程等諸規程の制定御飛び開催に関する事務
- ② 職員の人事に関する事務
- ③ 職員の給与に関する事務
- ④ 社会保険に関する事務
- ⑤ 退職手当等に関する事務
- ⑥ 公印の管理
- ⑦ 文章收受及び発送に関する事務
- ⑧ 施設の保守整備等に関する事務
- ⑨ その他総務に関する事務

# ■ 経理課 (経理・財務管理・契約) ■

## ■ 人員構成 ■

職員：課長	1名	係長	2名
課員	3名	非常勤職員	1名

## ■ 業務内容・概要・特徴 ■

### 経理係・財務管理係

---

- ① 現預金出納業務
- ② 予算、決算業務
- ③ 財務諸表作成業務
- ④ 会計記録に関する業務
- ⑤ 債権債務の管理業務
- ⑥ 資金繰り管理業務

### 契 約 係

---

- ① 契約業務
- ② 入札業務
- ③ 固定資産管理業務
- ④ 購買業務

上記業務内容の他、必要に応じて多岐にわたり業務を遂行している。

# ■ 医事課 ■

## ■ 人員構成 ■

課長	1名
係長	1名
課員	2名
非常勤事務員	3名
委託職員（システム含む）	39名
医師事務作業補助者（派遣）	12名

## ■ 部署紹介 ■

当院の立地場所は中華街に隣接しており、また横浜の観光地やビジネス街なども近隣にあり、多くの外国人移住者や観光者が来院している。そのため、中国語・韓国語・英語に精通した通訳兼医療事務の職員を雇用し、1日当たり約15～20名の外国人患者の受診手続きの案内と各種検査に随行し、また診察時においても同伴し通訳を行っている。

特に中国人患者の受診が多く、通訳も相応に配置しているので、安心して受診していただきたい。

## ■ 業務内容・概要・その他 ■

### 1. 総合受付業務

総合案内、初診・再診・救急車・紹介・書類受付、外国語通訳・レジ収納等の総合的な病院窓口業務に関する業務

### 2. 入退院業務

入退院窓口・診療費の算定・各病棟における受付業務・書類管理・診療録管理・保健確認等の入院全般に関する業務

### 3. 外来業務

診療費の算定・各外来および検査等窓口における受付業務・診療録管理・コスト管理等の外来全般に関する業務

### 4. 診療報酬請求業務

入院・外来・労災・交通事故等の明細書作成、過誤請求等の診療報酬請求等のレセプトに関する業務

### 5. 統計・報告業務

病院統計、調査依頼に基づく各種報告、提示報告等の統計管理に関する業務

### 6. 施設基準管理

施設基準に係る届出書の作成、施設基準実績値のモニタリング、従事者管理等の施設基準に関する業務

### 7. 医師事務作業補助業務

各科における診療補助、書類作成、等の医師事務作業補助に関する業務

### 8. その他

文書管理、未収金管理、医事渉外、保健予防活動、苦情対応を含む患者相談窓口等

# ■ システム管理室 ■

## ■ 人員構成 ■

委託職員 2

## ■ 部署紹介 ■

病院情報システムの全般的な運用・維持管理業務をおこなっています。

システムの安定稼働の確保、運用業務の効率化、およびシステムの機能向上による事務作業の効率化を目指します。

業務の実施に当たっては、個人情報等の取扱、データの漏洩に十分留意し、業務の信頼性及び安全性の確保に努めています。また、病院情報システムの運用・維持管理に係る関係者と相互に連携して、円滑な業務の実施を図ります。

## ■ 業務内容・概要・その他 ■

### 1. 病院情報システム運用・維持管理業務

#### ①稼働環境及び動作環境の設定、管理

アプリケーションインストール、ユーザー設定、ネットワーク設定等

#### ②障害対応

原因調査、対応の検討

#### ③セキュリティ管理

セキュリティ設計、ウイルス対策等

#### ④ソフトウェア資産管理

ソフトウェア資産管理基準に順境したソフトウェアライセンスの管理

#### ⑤統計業務

月次診療実績統計、その他統計依頼事項対応

#### ⑥PCおよび周辺機器のヘルプデスク・修理対応

PC、Officeの操作、プリンタ等

#### ⑦マスタ管理

電子カルテ、医事会計およびその他部門システムのマスタ管理

#### ⑧ホームページおよびメールアドレス保守

ホームページ更新サポート、およびメールアドレスの作成

#### ⑨看護学校システム管理

PCおよびネットワーク等全般

# ■ 地域ケアサービスセンター 地域医療連携室 ■

## ■ 人員構成 ■

地域医療連携室長（医事課課長兼務）	1
常勤職員	2
派遣職員	1
非常勤職員（通訳）	3
派遣職員（通訳）	1

## ■ 部署紹介 ■

地域医療連携室は、地域医療機関からの患者紹介、検査依頼などを受け付ける連携の窓口業務です。地域の皆様から多大なるご支援、ご協力をいただき、緊密な連携と機能分担の推進に努めております。

今後も当院の機能を十分に生かし、救急医療や紹介診療等を迅速かつ適切な対応でお受けいたします。

地域ケアサービスセンター内に設置されており、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーと連携をとりながらスムーズに患者様の受け入れができるように取り組んでおります。

## ■ 業務内容・概要・その他 ■

紹介患者様の事前連絡対応  
 単純画像診断（放射線科）の予約対応  
 紹介医療機関へ報告書管理  
 紹介患者情報の管理  
 地域医療交流会、勉強会等の企画運営

【令和6年度 紹介・逆紹介率】

	紹介率	逆紹介率
内科	19%	13%
腎血液浄化科	99%	108%
総合診療科	88%	74%
呼吸器内科	89%	93%
消化器内科	91%	59%
循環器内科	96%	88%
外科	73%	46%
血管外科	66%	32%
整形外科	55%	29%
脳神経外科	55%	47%
皮膚科	37%	31%
泌尿器科	56%	63%
眼科	13%	17%
麻酔科	88%	17%
放射線科	113%	110%
歯科口腔外科	61%	65%
全体	58%	47%

## ■ 地域医療貢献への取り組み ■

- ・平成26年8月1日より、紹介状をお持ちの患者様は診療予約をお受けしており、医療機関だけでなく患者様ご自身からでもご予約を承ります。地域ケアサービスセンターまでご連絡ください。
- ・広報誌を定期的に発送し、病院内の活動をお知らせしています。
- ・令和4年1月から地域医療支援病院として運営を開始しました。今後も地域医療に貢献する医療機関として努力してまいります。

独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院

病院年報2024年度版

発行日 令和8年2月

発行者 独立行政法人地域医療機能推進機構

横浜中央病院

病院長 川田 望

〒231-8553

神奈川県横浜市中区山下町268番地

電話045-641-1921

編集者 学術研修図書委員会